

2010年度

京都大学野生動物研究センター年報
Wildlife Research Center, Kyoto University



2010 年度

京都大学野生動物研究センター年報

Wildlife Research Center, Kyoto University

目 次

1. 巻頭言	1
2. 野生動物研究センター憲章	2
3. 組織概要	2
4. 2010 年度構成員	3
5. この一年の動き・活動	5
6. 学部・大学院教育	6
7. その他の教育・普及活動ならびに地域との連携	6
8. 外部資金	7
9. グローバル COE としての活動	8
10. HOPE プロジェクト	9
11. 共同利用・共同研究拠点	10
12. 動物園・水族館との連携（研究, 教育, 連携協定など）	12
13. 国内研究拠点・国内機関との共同研究	15
14. 共同研究者訪問履歴表	16
15. 海外拠点・海外機関との研究交流等	17
16. 海外渡航	18
17. 自己点検評価	21
18. 2010 年度研究業績	
執筆文章（和文）	22
執筆文章（英文）	22
学会等での発表・講演（日本語）	23
学会等での発表・講演（英語）	24
制作した映像・番組	27
受賞	27
学会活動等	27
19. 新聞・雑誌・TV 等での紹介	27
20. 附属観察所利用実績	
幸島観察所	28
屋久島観察所	28

1. 巻頭言

はじめに、3月11日に発生した東日本大震災で亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表すとともに、被災された方々やその関係者に心よりお見舞い申し上げます。地震に続く津波に加え原発事故まで重なり、被災地の方々の苦悩を思うと言葉もありません。避難生活をされている方々が一日でも早く本来の生活を取り戻されることを願っています。

さて、野生動物研究センターは本年度、2年前に迎えた初めての大学院生5人が修士課程を修了しました。その一方で、修士課程、博士後期課程で6人の大学院生、教員として2人の助教を新たに迎える運びとなりました。気がついてみると、教員、大学院生、研究員、事務職員、技術職員など、野生動物研究センターを構成する全メンバーは55人に膨らんでいます。小さな部局でありながらもこのように大所帯となった以上、これまで以上に多彩かつ独創的な教育研究活動を展開していかなければならないと考えております。

本年度は、9月にCOP10パートナーシップ事業として第15回京都大学国際シンポジウム「生物多様性と動物園・水族館」を主催し、国内外の研究者と有意義な議論を行うことができました。また、3月には当研究センターが連携する京都、名古屋、横浜、熊本の4つの動物園との共催でシンポジウム「ず〜どすえ。動物園大学 in 京都」を開催し、動物園との連携による教育研究成果を広く一般社会に還元することができました。これらのシンポジウムの開催にご尽力いただいた方々、ご参加下さったみなさまに感謝いたします。

また、本研究センター開設以来の懸案であった研究室の拡充に少しだけ進展が見えました。現在、関田南研究棟（旧日本学生支援機構）3階と総合研究2号館地階に研究室を構えていますが、新たに関田南研究棟の1階と地階が当研究センターに加わりました。決して十分とは言えないまでも3月末にはその改修工事が完了し、1階には事務室、演習室、研究室が、地階にはセミナー室兼会議室が増設されました。本件にご尽力いただいた方々に御礼申し上げますと共に、今後も研究環境の整備に努力を続けていきたいと思っております。

本研究センターによるアフリカ、南米、東南アジア等の国々でのフィールドワークはますます活性化する一方で、ゲノム研究、認知科学、福祉長寿など実験室での研究も進展しています。フィールドや研究対象のさらなる開拓は必須のことですが、野生動物の保全研究を一層推進するために、動物園・水族館とのネットワーク形成の拡充、そして多彩な視点からの野生動物に関するデータベース構築は当研究センターの最重要課題となります。こうした活動は国内の組織間における信頼関係の形成はもちろんのこと、友好的な国交のためにもきわめて重要なものとなるでしょう。今後とも本研究センターの活動の万般につきご指導をたまわりたく、心よりお願い申し上げます。

京都大学野生動物研究センター
センター長 伊谷 原一

2. 野生動物研究センター憲章

(平成 20 年 2 月 5 日制定)

京都大学野生動物研究センターは、野生動物に関する教育研究をおこない、地球社会の調和ある共存に貢献することを目的とする。その具体的な課題は次の 3 点に要約される。第 1 に、絶滅の危惧される野生動物を対象とした基礎研究を通じて、その自然の生息地での暮らしを守り、飼育下での健康と長寿をはかるとともに、人間の本性についての理解を深める研究をおこなう。第 2 に、フィールドワークとライフサイエンス等の多様な研究を統合して新たな学問領域を創生し、人間とそれ以外の生命の共生のための国際的研究を推進する。第 3 に、地域動物園や水族館等との協力により、実感を基盤とした環境教育を通じて、人間を含めた自然のあり方についての深い理解を次世代に伝える。

京都大学野生動物研究センター設置準備委員会

3. 組織概要

センターの研究は、野生動物のこころ、からだ、暮らし、ゲノム、そして健康長寿の探究をめざします。そのために、下記のような 5 つの研究部門で構成されています。さらに 1 つの寄附部門、国内に 3 つの研究拠点、海外に 7 つのフィールドワークの研究拠点があります。

1. 研究部門

比較認知科学、動物園科学、保全生物学、人類進化科学、健康長寿科学

2. 寄附研究部門

福祉長寿研究部門

3. 国内の研究拠点

幸島観察所、屋久島観察所、チンパンジー・サンクチュアリ・宇土

4. 海外の研究拠点

ボルネオのダナンバレー、タンザニアのウガラとマハレ、コンゴのカフジとワンバ、ガボンのムカラバ、ギニアのボッソウ・ニンバ

なおセンターの運営は、協議員会でおこない、諮問機関として、連携協議会があります。

4. 2010 年度構成員

教員

センター長・教授:伊谷 原一 (いだに げんいち)
教授:幸島 司郎 (こうしま しろう)
教授:村山 美穂 (むらやま みほ)
准教授:杉浦 秀樹 (すぎうら ひでき)
准教授:田中 正之 (たなか まさゆき)
准教授:中村 美知夫 (なかむら みちお)
特定助教 (特別教育研究):森阪 匡通 (もりさか ただみち) (2010年12月1日～)
客員教授 (外国人研究員): David Anthony Hill (でいびつど あんそにー ひる) (2010年7月1日～)

寄附研究部門教員 (チンパンジー・サンクチュアリ・宇土)

客員准教授 (寄附研究部門):中村 美穂 (なかむら みほ)
特定助教 (寄附研究部門):森村 成樹 (もりむら なるき)
特定助教 (寄附研究部門):藤澤 道子 (ふじさわ みちこ)

事務職員・技術職員・非常勤職員等

事務長:八木 定行 (やぎ さだゆき) (霊長類研究所と兼任)
事務掛長:福垣 重樹 (ふくがき しげき)
事務職員 (再雇用):小寺 英治 (こてら えいじ)
技術職員:鈴木 崇文 (すずむら たかふみ) (幸島観察所)
技術職員 (再雇用):冠地 富士男 (かんち ふじお) (幸島観察所)
特定研究員 (寄附研究部門):野上 悦子 (のがみ えつこ) (チンパンジー・サンクチュアリ・宇土) (2010年10月16日～)
事務補佐員/教務補佐員:高橋 佐和子 (たかはし さわこ)
事務補佐員:宮崎 洋子 (みやざき ようこ) (2010年4月1日～2010年11月30日)
技術補佐員/研究支援推進員:栗原 智子 (くりはら ともこ) (2010年5月1日～)
事務補佐員:一井 泉 (いちい いずみ) (2010年7月1日～)
事務補佐員:廣瀬 聖子 (ひろせ せいこ) (2010年8月1日～2011年3月31日)
研究支援推進員:國本 幸子 (くにもと さちこ) (2010年9月16日～2011年1月31日)

兼任教員

教授:古市 剛史 (ふるいち たけし) 京都大学霊長類研究所・教授
教授:松沢 哲郎 (まつざわ てつろう) 京都大学霊長類研究所・教授
教授:松林 公蔵 (まつばやし こうぞう) 京都大学東南アジア研究所・教授
教授:山極 壽一 (やまぎわ じゅいち) 京都大学大学院理学研究科・教授
教授:遠藤 秀紀 (えんどう ひでき) 東京大学総合博物館・教授
教授:長谷川 寿一 (はせがわ としかず) 東京大学大学院総合文化研究科・教授
教授:長谷川 博 (はせがわ ひろし) 東邦大学理学部・教授
准教授:友永 雅己 (ともなが まさき) 京都大学霊長類研究所・准教授
准教授:今井 啓雄 (いまい ひろお) 京都大学霊長類研究所・准教授
准教授:平田 聡 (ひらた さとし) 林原類人猿研究所・主席研究員
准教授:藤田 志歩 (ふじた しほ) 山口大学農学部・准教授 (2010年5月11日～)

研究員等

日本学術振興会 特別研究員PD:山田 一憲 (やまだ かずのり) (~2010 年7月15日)
日本学術振興会 特別研究員PD:久世 濃子 (くぜ のうこ)
研究員 (特別教育研究):齋藤 亜矢 (さいとう あや)
研究員 (特別教育研究):松林 尚志 (まつばやし ひさし)
研究員 (特別教育研究/研究機関):金田 大 (かねだ ひろし) (2010年6月1日~)
研究員 (研究機関):伊藤 亮 (いとう りょう) (2010年9月1日~)
教務補佐員/研究員 (研究機関):伊藤 詞子 (いとう のりこ)
教務補佐員:西江 仁徳 (にしえ ひとなる)
教務補佐員:早野 あづさ (はやの あづさ)
教務補佐員:金森 朝子 (かなもり ともこ)

大学院博士後期課程

鈴木 真理子 (すずき まりこ)
原澤 牧子 (はらさわ まきこ)
吉田 弥生 (よしだ やよい)
佐々木 (山本) 友紀子 (ささき ゆきこ)
阿部 秀明 (あべ ひであき)
Sherif Ibrahim Ahmed Ramadan (しえりふ いぶらひむ あーめど らまだん)
黒鳥 英俊 (くろとり ひでとし)
坂本 秀房 (さかもと ひでふさ)

大学院修士課程

飯田 恵理子 (いいだ えりこ)
石黒 雄大 (いしぐろ ゆうた)
岸 尚代 (きし ひさよ)
松川 あおい (まつかわ あおい)
安井 早紀 (やすい さき)
齋藤 美保 (さいとう みほ)
坂井 寛子 (さかい ひろこ)
澤栗 秀太 (さわぐり しゅうた)
宝田 一輝 (たからだ かずき)
中島 麻衣 (なかしま まい)
中林 雅 (なかばやし みやび)

研究生

Christopher Adenyo (くりすとふあー あでによ) (国費外国人(研究)留学生)

特別研究学生

吉川 翠 (よしかわ みどり) 東京農工大学大学院連合農学研究科博士後期課程

※期間が書いていない場合は2010年4月1日~2011年3月31日の在籍

5. この一年の動き・活動

- 2010年 4月9日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系(分科)会議(於:吉田泉殿)
4月14日: 新入大学院生等ガイダンス(於:吉田泉殿)
5月10日: 幸島野外実習(～17日)
5月21日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系(分科)会議(於:吉田泉殿)
6月1日: 野生動物研究センター連携協議会(於:吉田泉殿)
6月2日: 共同利用・共同研究拠点ヒアリング(於:文部科学省)
6月11日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系(分科)会議(於:吉田泉殿)
6月8日: 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業「ガーナの野生動植物の保全と、今後の共同研究」(於:理学研究科セミナーハウス)(～9日)
7月1日: 共同利用・共同研究拠点に認定(認定期間:2011年4月1日～2016年3月31日)
7月10日: チンパンジー・サンクチュアリ・宇土運営委員会(於:CSU)
7月12日: 第20回名古屋市東山動植物園ワークショップ(於:東山動植物園)
7月16日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系(分科)会議(於:吉田泉殿)
8月4日: 大学院修士課程入学試験(於:理学研究科)(～5日)
8月5日: 大学院系(分科)会議(於:理学研究科)
9月2日: 野生動物研究センター人事選考委員会(於:センター)
9月19日: 京都大学国際シンポジウム生物多様性と動物園・水族館:大学との連携による保全・研究・教育(於:名古屋港湾会館)(～20日)
9月30日: 野生動物研究センター臨時協議員会(於:吉田泉殿)
10月15日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系(分科)会議(於:吉田泉殿)
11月12日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系(分科)会議(於:吉田泉殿)
11月30日: 京都大学役員会において三和化学とのCUSに係る譲渡契約が了承される
12月7日: 京都大学と三和化学が, CUSに係る譲渡契約協定書の締結
12月10日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系(分科)会議(於:吉田泉殿)
- 2011年 1月7日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系(分科)会議(於:吉田泉殿)
1月25日: 野生動物研究センター臨時協議員会
2月10日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系(分科)会議(於:吉田泉殿)
2月16日: 野生動物研究センター連携協議会(於:吉田泉殿)
2月16日: 野生動物研究センター共同利用・共同研究拠点運営準備委員会(於:吉田泉殿)
2月16日: 野生動物研究センター共同利用・共同研究拠点計画準備委員会(於:吉田泉殿)
2月25日: 大学院博士後期課程入学試験(於:理学研究科)
2月25日: 大学院系(分科)会議(臨時)(於:理学研究科)
3月11日: 野生動物研究センター協議員会, 大学院系(分科)会議(於:吉田泉殿)
3月21日: 野生動物研究センターシンポジウム「ず～どすえ。動物園大学in京都」(於:京都会館, 京都市動物園)
3月29日: 第26回定例懇談会「総長と京大記者クラブとの定例懇談会」(於:京大時計台)

6. 学部・大学院教育

全学共通科目

- 野生動物研究のすすめ I (AB 群・前期)
- 野生動物研究のすすめ II (AB 群・後期)

ポケット・ゼミ

- 野生動物と動物園科学 (AB 群・前期集中)

大学院生向け講義

- 野生動物概論 (集中)
- 野生動物基礎論 I (前期集中)
- 野生動物基礎論 II (前期集中)
- 野生動物基礎論 III (前期集中)
- 野生動物基礎論 IV (前期集中)
- 野生動物基礎論 V (前期集中)
- 野生動物基礎論 VI (前期集中)
- 野生動物特論 (後期集中)
- 野生動物ゼミナール IA (前期)
- 野生動物ゼミナール IB (後期)
- 野生動物ゼミナール IIA (前期)
- 野生動物ゼミナール IIB (後期)
- 霊長類学・野生動物特殊研究 IA (前期)
- 霊長類学・野生動物特殊研究 IB (後期)
- 霊長類学・野生動物特殊研究 IIA (前期)
- 霊長類学・野生動物特殊研究 IIB (後期)

学位論文

- 飯田恵理子「西部タンザニアの疎開林における bush hyrax の環境利用に関する研究」2010 年度京都大学理学研究科修士論文.
- 石黒雄大「飼育下フサオマキザルの劣位個体はどの時点の優位個体の威嚇に対応して警戒の頻度を調整しているか」2010 年度京都大学理学研究科修士論文.
- 岸尚代「イヌとオオカミの行動特性を遺伝子から探る—イヌとオオカミはどう違う?」2010 年度京都大学理学研究科修士論文.
- 松川あおい「ボルネオ島熱帯雨林に生息するヤマアラシ類の生態」2010 年度京都大学理学研究科修士論文.
- 安井早紀「ゾウの性格を探る—性, 年齢, 環境, 遺伝子との関連」2010 年度京都大学理学研究科修士論文.

7. その他の教育・普及活動ならびに地域との連携

幸島での見学・実習

- 串間市立北方小学校 2010 年 5 月 28 日 (鈴木崇文, 冠地富士男)
- 串間市立市木小学校 2010 年 10 月 25 日 (鈴木崇文, 冠地富士男)
- 宮崎県新富町 長寿会 2010 年 11 月 1 日 (鈴木崇文, 冠地富士男)
- 串間市立有明小学校 2010 年 11 月 24 日 (鈴木崇文, 冠地富士男)
- NPO みやぎき子ども文化センター主催「幸島探検隊」2010 年 11 月 23 日 (鈴木崇文, 冠地富士男)

公開講座・講演

- 京都大学ジュニアキャンパス「野生動物研究のすすめ—自然への窓としての動物園—」
2010年9月26日(田中正之)
- 野生動物の遺伝子研究を保全や繁殖に生かす. 京都市私立高校会議 理科分科会
2010年10月24日(村山美穂)
- きょうと・人・まち・であいもん交流会 第6回「人とは何か」2010年12月4日(伊谷原一)
- 京都大学総合博物館レクチャーシリーズ(ジュニアレクチャー)「アフリカの森でチンパンジーと出会う」2011年1月22日(中村美知夫)
- 京都大学・京都市連携3周年記念事業「野生動物学のすすめ」
「ゲノム実習」2011年3月19日(村山美穂)
「チンパンジーの勉強体験」2011年3月20日(田中正之)
- 宮崎市田野地区野生猿対策組合先進地視察研修会「野生ザルを知る」2011年3月23日(鈴木崇文)

非常勤講義

- 播磨高校「遺伝子から動物の心を探る」2010年6月5日(村山美穂)
- 京都工芸繊維大学「生物学の潮流」2010年11月6日(村山美穂)
- 京都工芸繊維大学「生物学の潮流」2010年12月4日(幸島司郎)

京都市動物園における研究解説・講演活動

- 「田中先生のお話 京大の先生から動物のお話を聞こう！」毎月第4土曜(田中正之)
同志社中学1年生 2011年3月10日(田中正之)
同志社女子中学1年生 2011年3月11日(田中正之)
橘中学1年生 2011年3月23日(田中正之)

研究室見学の受入

- 熊本県立熊本高等学校1年 2010年12月8日(中村美知夫)

8. 外部資金

科学研究費補助金

受入者	代表/ 分担	種別	研究課題名	金額(千円:直 接/間接)
幸島司郎	代表	基盤 A	地球規模環境変動に対する氷河生態系の応答予測と影響評価	13,500/4,050
村山美穂	代表	基盤 B	希少野生動物のDNA Zooと遺伝子解析による行動予測システムの構築	3,600/1,080
杉浦秀樹	代表	基盤 C	霊長類における群れの凝集性の調節に関する比較研究	1,300/390
藤澤道子	代表	挑戦的 萌芽	チンパンジーと人間の加齢に関する比較研究—自律神経ならびに高次脳機能	1,200
伊藤詞子	代表	若手 A	チンパンジー社会における社会的カテゴリーとそれをめぐる人間の語り	3,900/1,170
中村美知夫	代表	若手 B	野生チンパンジーの隣接二集団間の文化比較	1,100/330
齋藤亜矢	代表	若手 B	絵を描くことの認知的な基盤とその発達	600/180
松林尚志	代表	若手 B	大型哺乳動物を考慮した熱帯商業林管理に関する研究	500/150

山田一憲	代表	特別研究員奨励費	社会の寛容性が個体の行動に与える影響—ニホンザル3集団の比較研究	900
久世濃子	代表	特別研究員奨励費	野生オランウータンを対象とした社会的知性仮説の検証	1,000
佐々木友紀子	代表	特別研究員奨励費	ハクジラ亜目におけるコミュニケーション音声の進化に関する研究	700
中村美知夫	分担	基盤 S	資源利用と闘争回避に関する進化人類学的研究	1,500/450
中村美知夫	分担	基盤 A	野生チンパンジーにおける文化的行動の発達と新奇行動の流行現象	630/189
幸島司郎	分担	基盤 B	日本近海に生息するミナミハンドウイルカの生態解明と保全のための基礎的研究	800/240
村山美穂	分担	基盤 B	パンのかげらで何がわかる！—発酵食品の機能性成分と微生物遺伝子解析—	450/135
伊谷原一	分担	基盤 B	ボノボを中心とするヒト上科霊長類の筋骨格構造から読み解く環境適応	150/45

その他の研究費

受入者	研究課題	種別	金額(千円:直接/間接)
野生動物研究センター	動植物資源の保全と持続的活用に関する研究交流	アジア・アフリカ学術基盤形成事業	5,000/500
中林雅	東南アジアに生息する果実食ジャコウネコ 4 種の 3 次元的空間利用の把握と空間的すみわけの解明	平成 22 年度笹川科学研究助成《学術研究部門》	720

寄附金

受入者	寄附の目的	種別	金額(千円:直接/間接)
福祉長寿研究部門	寄附部門・福祉長寿研究部門に係る寄付	三和化学研究所寄附金	30,000/1,500
村山美穂	唾液及び糞中のDNA分析によるキリン種における亜種判別法の確立に対する研究助成	(社) 日本動物園水族館協会助成金	300/9
村山美穂	鳥類の種判別の研究に対する研究助成	愛知県警察本部研究助成金	385/11

9. グローバル COE としての活動

2007 年度より採択された京都大学グローバル COE プログラム「生物の多様性と進化研究のための拠点形成—ゲノムから生態系まで」により、以下の活動をおこなっている。

1) キャリアパスセミナーの開催

動物園、水族館に就職した卒業生を招聘して講演会をおこない、研究の経験を生かした職業についての情報を提供した。

2) 「生き物たちのつづれ織り」第 4 巻への執筆

教員 2 名、ポスドク 1 名、大学院生 1 名が執筆した。

3) 大型共通機器の活用

研究生が、次世代シーケンサーを活用して実験をおこなった。Biod-gCOE シーケンシングシステム成果発表会において、大学院生が研究成果を報告した。

10. HOPE プロジェクト

日本学術振興会先端研究拠点事業 HOPE

HOPEとは、そのプロジェクト名「人間の進化の霊長類的起源 (Primate Origins of Human Evolution)」の英文題目のアナグラム(頭文字を並べ替えたもの)である。地球上の動物種の中で、人間ともっとも近縁な人間以外の霊長類に焦点を当て、「われわれ人間はどこから来たのか」「人間の本性とは何か」といった根源的な問いに答えるための研究をおこなう。

先端拠点事業とは、我が国と複数の学術先進国における先端研究拠点間の交流を促進することにより、国際的な先端研究ネットワークを構築し、戦略的共同研究体制を運営するものである。京都大学霊長類研究所と野生動物研究センターの2部局の共同事業である。HOPE事業については、HOPEのホームページを参照(<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/hope/index-j.html>)

1. 日本学術振興会若手研究者国際・トレーニング・プログラム (ITP)

「人類進化の霊長類的起源の解明に向けた若手研究者育成国際プログラム (ITP-HOPE)」

ITPとは、日本の大学院学生、ポスドク、助教等の若手研究者が海外で活躍・研鑽する機会の充実強化を目指して、日本学術振興会が実施している事業である。

ITP-HOPEは平成21年度から25年度まで実施される。霊長類研究所と野生動物研究センターの若手研究者が助成対象となる。

本年度、平成22年度にITP-HOPEに採択され、研修および海外調査を実施した野生動物研究センターの若手研究者の事業計画は以下のとおりである。

事業番号	氏名	研究内容	期間
22-002	藤澤道子	野生チンパンジーの老化に伴う身体機能・社会的役割の変化に関する研究	2010/5/1～7/1
22-005	中林雅	東南アジアに生息する果実食性ジャコウネコ4種の3次元的空間利用の把握と空間的住み分けの解明	2010/7/2～12/1
22-007	飯田恵理子	疎開林に棲息するブッシュハイラックスの行動と生態に関する研究	2010/6/6～10/07
22-008	吉川翠	乾燥疎開林のチンパンジーの生態調査	2010/12/19～ 2011/3/20
22-009	齋藤美保	カタビ国立公園におけるキリンの社会行動、社会構造に関する研究	2010/6/6～11/5
22-010	中島麻衣	野生チンパンジーと飼育チンパンジーの行動の比較:環境が行動にもたらす影響	2010/6/5～12/16
22-012	澤栗秀太	ドール (<i>Cuon alpinus</i>) の音声行動に関する研究、及び野生個体調査のための野外調査トレーニング	2010/10/28～12/28
22-013	松川あおい	マレーシア熱帯雨林に生息するヤマアラシの生態学的研究	2010/6/30～11/29
22-016	吉田弥生	南米に生息する野生小型ハクジラ類の音声行動に関する現地調査	2011/1/14～3/27

2. 日本学術振興会組織的な若手研究者等海外派遣プログラム

「人間の本性の進化的起源に関する先端研究 (AS-HOPE)」

「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」は、我が国の大学等学術研究機関、国公立試験研究機関等が、我が国の若手研究者等(学部学生、大学院生、ポスドク、助手、助教、講師及びこれらに相当する職の者)を対象に、海外の研究機関や研究対象地域において研究をおこなう機会を組織的に提供する事業に対して助成することにより、我が国の将来を担う国際的視野に富む有能な研究者を養成することを目指して、平成21年度の補正予算により交付される補助金として措置

されることとなった基金である。

本年度、平成22年度にAS-HOPEに採択され、研修および海外調査を実施した野生動物研究センターの研究者の事業計画は以下のとおりである。

事業番号	氏名	研究内容	期間
AS-22-006	宝田一輝	リンカーン動物園内フィッシャー類人猿研究保全センターの提供するインターンシップに参加	2010/5/21～8/18
AS-22-008	吉川翠	タンザニアの乾燥帯に生息するチンパンジー (<i>Pan troglodytes</i>) の生態研究	2010/7/19～9/09
AS-22-015-1	金森朝子	野生ボルネオオランウータンの採食行動に関する研究	2010/6/16～7/9
AS-22-015-2	金森朝子	野生ボルネオオランウータンの採食行動に関する研究	2010/12/3～12/17
AS-22-015-3	金森朝子	野生ボルネオオランウータンの採食行動に関する研究	2011/3/15～3/25
AS-22-016	吉田弥生	南米に生息する野生小型ハクジラ類の音声行動に関する研究	2010/6/4～6/20
AS-22-018	佐々木友紀子	音響的手法を用いた南米小型ハクジラ類の行動解析	2011/1/14～3/27
AS-22-022	阿部秀明	第25回国際鳥類学会での発表および国立アマゾン研究所での研究視察	2010/8/19～9/11
AS-22-023	森村成樹	野生チンパンジーの離合集散性と遊びに関する行動調査	2010/6/14～8/24
AS-22-035	金田大	ガーナ大学におけるセミナー発表および野外調査	2010/9/19～10/21
AS-22-036	坂本英房	野生チンパンジーの観察	2010/8/16～8/25
AS-22-037	藤澤道子	国民総幸福をうたう国ブータンの社会システム、教育システムをみる	2010/11/19～12/1
AS-22-038	久世濃子	野生ボルネオ・オランウータンの繁殖に関する研究	2011/1/23～2/4
AS-22-039	中林雅	京都大学-ブータン友好関係構築の実現可能性の探索	2010/3/24～3/31
AS-22-G033	伊藤亮	ガーナの野生ケーンラットの基礎生態と、生態系における他種との相互作用の地域間比較	2010/10/5～11/5
AS-22-S004	幸島司郎	野生動物に関する打合せ	2010/10/28～11/9
AS-22-S005	幸島司郎	アマゾンカワイルカおよびイロワケイルカの研究打合せ	2010/6/4～6/21
AS-22-S007	伊谷原一	乾燥疎開林における野生動植物相の調査	2010/6/14～6/28

11. 共同利用・共同研究拠点拠点

平成22年7月1日付けで、本センターは共同利用・共同研究拠点として以下のとおり文部科学大臣の認定を受けた。

大学・研究施設名：京都大学野生動物研究センター

拠点名：絶滅の危機に瀕する野生動物（大型哺乳類等）の保全に関する研究拠点

研究分野：野生動物学

認定有効期限：平成23(2011)年4月1日～平成28(2016)年3月31日

これに伴い、本センターは、絶滅が危惧される野生動物の保全に関する研究をおこなっている研究者、また野生動物の研究を希望する研究者、および動物園・水族館等で働く職員の方、その他野生動物保全に携わる方を対象として、共同利用・共同研究の事業を実施することとした。日本で唯一の野生動物保全研究の拠点を構築することで、野生動物に関するさまざまな方面からの研究を促進し、野生動物保全につなげていくことを目指す。

現在までの準備状況

2011年2月16日 共同利用・共同研究拠点運営委員会および拠点計画委員会を開催、具体的な募集要項の作成。

3月7日 野生動物を研究する際のガイドライン、動物研究の倫理に関するガイドラインを策定。

3月11日 公募開始。

今後の予定

2011年4月24日 公募締め切り。

5月26日 共同利用・共同研究拠点計画委員会にて審査。

6月上旬 同拠点運営委員会にて採否決定。

6月中旬 採否通知。

共同利用・共同研究拠点運営委員会

伊谷原一（京都大学野生動物研究センター・教授）

松沢哲郎（京都大学霊長類研究所・教授）

山極壽一（京都大学大学院理学研究科・教授）

中道正之（大阪大学大学院人間科学研究科・教授）

牛田一成（京都府立大学大学院生命環境科学研究科・教授）

長谷川淳一（京都市動物園・園長）

共同利用・共同研究拠点計画委員会

依田憲（名古屋大学大学院環境学研究科・准教授）

内藤和明（兵庫県立大学自然・環境科学研究所・講師）

大西尚樹（森林総合研究所東北支所生物多様性研究グループ・主任研究員）

今井啓雄（京都大学霊長類研究所・准教授）

田中正之（京都大学野生動物研究センター・准教授）

森阪匡通（京都大学野生動物研究センター・特定助教）

各種ガイドラインの策定

1) 野生動物を研究する際のガイドライン

本センターは、野生動物の研究を進めるに当たり、研究対象となる動物を大切に扱うことと自然環境を保全する観点から、「野生動物を研究する際のガイドライン」を平成23年3月7日に制定した。対象は本センター構成員による研究、および本センターの共同利用研究としておこなわれる共同研究者による研究である。なお、このガイドラインは野生動物研究センターの、もしくは本センターを利用する研究者が、野外で野生動物を研究する際に注意すべき事柄のマニュアルでもあるため、そのような観点からも利用されることを希望するものである。

2) 動物研究の倫理に関するガイドライン

本センターは、野生動物に関する教育研究をおこない、地球社会の調和ある共存に貢献することを目的として設立された。その具体的な課題は次の三点に要約される。第一に、絶滅の危惧される野生動物を対象とした基礎研究を通じて、その自然の生息地での暮らしを守り、飼育下で

の健康と長寿をはかるとともに、人間の本性についての理解を深める研究をおこなうこと。第二に、フィールドワークとライフサイエンス等の多様な研究を統合して新たな学問領域を創生し、人間とそれ以外の生命の共生のための国際的研究を推進すること。第三に、地域動物園や水族館等との協力により、実感を基盤とした環境教育を通じて、人間を含めた自然のあり方についての深い理解を次世代に伝えることである。上記の目的のために、本センターにおいては、侵襲的な医学・薬学・生理学的実験、及び野生状態に比して著しく行動変容をもたらす可能性のある全ての行為は、理由の如何にかかわらず一切おこなわないことを原則とする。本センターは、以上の精神に従った上で、動物を対象とした非侵襲的な実験研究をおこなう者が遵守すべき指針として、平成23年3月7日に本ガイドラインを制定した。対象は主として本センターの構成員または共同利用研究者が実施する、放飼場や動物園など飼育下の動物を対象とした非侵襲的な動物研究である。なお、チンパンジーを飼養するセンターの附属施設であるチンパンジー・サンクチュアリ・宇土（以下、CSU）に関しては、チンパンジーの飼養と研究利用に関して独自のガイドラインを設けており、CSUでおこなう研究については、本ガイドラインに加えてCSUのガイドラインに従う必要がある。また、動物園や水族館等でおこなう研究に関しては、当該施設における規則及び、世界動物園水族館協会（WAZA）による「動物園・水族館による動物研究の実施に関する倫理指針」に準拠しておこなうことが求められる。また動物の取り扱いについては分類群によって大きく異なるため、対象となる分類群に関する指針・ガイドラインなどがある場合は、そうしたものも十分に考慮に入れることが望ましい。

12. 動物園・水族館との連携（研究、教育、連携協定など）

京都市動物園

1) チンパンジー生息地研修（タンザニア）

京都市動物園から伊藤二三夫氏、山本裕己氏が参加して、ゴンベ国立公園等で研修をおこなった。

2) 連携3周年記念事業「野生動物学のすすめ」（於：京都市動物園）

2011年3月19日～21日

実習：「ゲノム実習」2011年3月19日（村山美穂）

「チンパンジーの勉強体験」2011年3月20日（田中正之）

NPO ブース展示：マハレ野生動物保護協会、ポレポレ基金、市民Zooネットワーク、ボルネオ保全トラスト、サンクチュアリ・プロジェクト、どうぶつたちの病院、京都市動物園ふぁみりー

3) シンポジウム「ず〜どすえ。動物園大学 in 京都」（野生動物研究センター主催、京都市動物園・東山動物園・よこはま動物園ズーラシア・熊本市動植物公園の共催、於：京都会館・京都市動物園）

レクチャー：高木直子（京都市動物園）「キリンのミライは子育て上手??」

近藤裕治（名古屋市東山動植物園）「チンパンジーの群れづくり大作戦 in 東山動物園」

平賀真紀（よこはま動物園ズーラシア）「知ってる？気になる？ズーラシア」

北川勇夫（熊本市動植物公園）「海をこえカバのモモコがやってきた」

野上悦子（チンパンジー・サンクチュアリ・宇土）「知っとるね？ チンパンジー」

基調講演：山本茂行（富山市ファミリーパーク園長・日本動物園水族館協会会長）

「これからの動物園・水族館一半端じゃないぞ、厳しいぞ。でも、進むか。」

4) 動物園での小講演活動

毎月1回、通年で田中正之が実施。チンパンジー研究の解説を中心に、動物園でおこなっている研究について紹介した。

5) 京都市動物園との連絡協議会

京都市動物園において野生動物研究センターがおこなう研究や教育の内容について、月例で

報告や協議をおこなった。

- 6) チンパンジー，テナガザル，マンドリルを対象とした比較認知科学的研究
- 7) ヤブイヌの周産期行動の観察
- 8) ニシゴリラの夜間の行動の観察
- 9) ニシゴリラの採食エンリッチメントに関する研究
- 10)ゾウの性格関連遺伝子の解析
- 11)キリンの亜種判別
- 12)類人猿の性格関連遺伝子の解析

名古屋市東山動植物園

- 1) 東山ワークショップの共催 (2ヶ月に一度)
- 2) 国際シンポジウム「生物多様性と動物園・水族館」共催のための打ち合わせ会の開催 (2ヶ月に一度)
- 3) 東山再生フォーラム講演「生物多様性:動物園の役割」幸島司郎, 7月4日, 東山動植物園・動物会館
- 4) オオカミの視覚コミュニケーションに関する研究
- 5) ゾウの性格関連遺伝子の解析

名古屋港水族館

- 1) 第15回京都大学国際シンポジウム「生物多様性と動物園・水族館ー生き物からのメッセージー」(2010年9月19日・20日)

横浜市野毛山動物園

- 1) キリンの亜種判別

熊本市動植物園

- 1) チンパンジー飼育技術の協力
- 2) キリンの亜種判別
- 3) ゾウの性格関連遺伝子の解析

東京都恩賜上野動物園

- 1) イヌワシの遺伝的多様性の解析
- 2) ゾウの性格関連遺伝子の解析
- 3) キリンの亜種判別
- 4) 鳥類のドーパミン受容体遺伝子の多様性
- 5) ニホンザルの血縁解析
- 6) 類人猿の性格関連遺伝子の解析

大阪市天王寺動物園

- 1) イヌワシの遺伝的多様性の解析
- 2) ゾウの性格関連遺伝子の解析
- 3) キリンの亜種判別
- 4) 鳥類の性判別

秋田市大森山動物園

- 1) イヌワシの遺伝的多様性の解析
- 2) ゾウの性格関連遺伝子の解析

- 3) キリンの亜種判別
- 4) 鳥類の性判別

広島市安佐動物公園

- 1) ゾウの性格関連遺伝子の解析
- 2) キリンの亜種判別
- 3) 鳥類の性判別

愛媛県立とべ動物園

- 1) クロサイの嗅覚コミュニケーションに関する研究
- 2) ゾウの性格関連遺伝子の解析
- 3) キリンの亜種判別

多摩動物公園

- 1) オオカミの視覚コミュニケーションに関する研究
- 2) イヌワシの遺伝的多様性の解析
- 3) キリンの亜種判別

仙台市八木山動物公園，盛岡市動物公園

- 1) イヌワシの遺伝的多様性の解析
- 2) ゾウの性格関連遺伝子の解析
- 3) キリンの亜種判別

姫路市立動物園

- 1) ゾウの性格関連遺伝子の解析
- 2) キリンの亜種判別
- 3) 鳥類の性判別

福岡市動物園

- 1) キリンの亜種判別
- 2) 類人猿の性格関連遺伝子の解析
- 3) ゾウの性格関連遺伝子の解析

鹿児島市平川動物公園

- 1) キリンの亜種判別
- 2) 鳥類の性判別
- 3) ゾウの性格関連遺伝子の解析

姫路セントラルパーク，群馬サファリパーク，池田動物園，横浜市立金沢動物園，日立市かみね動物園，とくしま動物園，秋吉台自然動物公園，周南市徳山動物園，千葉市動物公園，静岡市立日本平動物園，佐世保市亜熱帯動植物園，到津の森公園，大牟田市動物園，宇都宮動物園，神戸市立王子動物園

- 1) ゾウの性格関連遺伝子の解析
- 2) キリンの亜種判別

九州自然動物公園アフリカンサファリ

- 1) ゾウの性格関連遺伝子の解析

宮島水族館, 海の中道水族館, しものせき海響館

- 1) スナメリの社会行動に関する研究

松島水族館

- 1) イロワケイルカの音声行動に関する研究

大分マリンパレス水族館「うみたまご」

- 1) 鳥類の性判別

沖縄子ども未来ゾーン, 羽村市動物公園, 伊豆バイオパーク, 長崎バイオパーク, 桐生が丘動物園, おびひろ動物園, いしかわ動物園, 南紀白浜アドベンチャーワールド, 釧路市動物園, 那須サファリパーク, 東北サファリパーク, 長野市茶臼山動物園, 浜松市動物園, 岩手サファリパーク, 富士自然動物公園, 高知県立のいち動物園協会, 旭川市旭山動物園, (財)富山市ファミリーパーク公社, 豊橋総合動植物公園, 埼玉県子ども動物自然公園, 富士自然動物公園, 宮崎市フェニックス自然動物園, 市原ぞうの国, 札幌市円山動物園

- 1) キリンの亜種判別

13. 国内研究拠点・国内機関との共同研究

幸島観察所

- 1) 幸島ニホンザルに関する報告

幸島観察所においては例年通り、宮崎県幸島に生息する野生ニホンザルを対象に個体データの蓄積、各個体の体重測定をおこなった。今年度は出産数6頭、死亡数6頭で増減は無しであった。2011年3月末の個体数は112頭である。前年度と同数であるが、若干個体数が多い状態にある。20歳以上の老齢個体が多く生存しているため、しばらくすると100頭前後に落ち着くものと考えられる。出産数6頭の内、2頭はマキ群である。また死亡個体は、チガヤ、キツネ、ヌカ、マアジ、サンマ、ゴボウのアカンボウでチガヤ以外は20歳未満の個体であった。

第一位のオスはホタテで変わりは無いが、ホタテが21歳になり高齢となっているため時期の第一位のオスが誰になるのか今後の注目すべき点である。

また、2011年1月に宮崎県と鹿児島県の県境にある霧島山系新燃岳で大規模な噴火が起こった。その影響で、幸島にも多量の降灰が確認された。動植物への影響が懸念されるが現時点では確認されていない。この件に関しては継続調査中である。

- 2) 施設に関する報告

今年度は幸島島内の井戸が砂で埋もれた為、井戸の掘削、及び補修をおこなった。2年前にテント設営場の整備と井戸の掘削をおこなったが、井戸は2年間で完全に埋まってしまい、テント設営場にも多量の砂が上がっている状態である。施設利用者も増え始めたため、テントを使用して島内に宿泊する事も多い。根本的な対策が求められる。

- 3) 研究・教育に関する報告

研究では5月にドイツ・マックスプランク研究所のAnna Serrano氏が認知実験、6月に京都大学野生動物研究センター原澤牧子氏の母子運搬に関する長期調査、8月に大分市教育委員会の栗田博之氏が幸島の野生ニホンザルを対象に体長測定がおこなわれた。野外実習は、京都大学野生動物研究センターをはじめ、京都大学霊長類研究所、自然学ポケットゼミナール、宮崎大学の学生実習がおこなわれた。IPS2010のエクスカージョンで16名の外国人研究者が見学に来られた。また、一般を対象に自然観察会、見学会が開催され、これに全面的に協力した。報道関係も国内外から数件依頼があり、協力した。しかし、昨年度、韓国の報道スタッフによる幸島の野生ザルに対し無断で給餌行動、サルに対する暴力的な行動が発覚し問題となった。こ

のを受けて 8 月に宮崎県、串間市との三者協議をおこない、報道依頼に対する密な連絡を取る事などが確認された。こうした問題があったことで、報道依頼に対して慎重に対応している。

屋久島観察所

本年度も大学院生を中心に活発に研究がおこなわれた。また、京都大学グローバル COE プログラム「生物の多様性と進化研究のための拠点形成」によるフィールド科学実習がおこなわれた。

施設整備としては、老朽化した、太陽熱温水器等を修理するとともに、パソコンなどを使うための作業スペースを整備した。また、安全対策の強化のために衛星電話など機材を導入した。

福祉長寿研究部門／チンパンジー・サンクチュアリ・宇土 (CSU)

1) CSU チンパンジーに関する報告

チンパンジーの保有個体数は 59 個体から 54 個体へと減少した。54 個体のうち、とべ動物園(イブウ)と京都市動物園(ジェームス)に繁殖貸し出しをおこなっている。2010 年 8 月、カズミが東山動植物園に転出し、交換にリナが CSU へ転入した。11 月ジェームスが京都市動物園へ転出した。2011 年 3 月にマルク・ノゾミ・カナエ・クッキーが熊本市動植物園へ転出した。とべ動物園にいた CSU 保有個体(ゴウ)がのいち動物公園へ転出した。代わりにベルがのいち動物公園から CSU へ転入した。ヨシオが腸閉塞により死亡した。第 1 飼育棟には雄 15 個体(1~3 群)、第 2 飼育棟には雄 10 個体(2 群)、第 5 飼育棟には雄 5 個体と雌 21 個体(5~7 群)が、雄/雌のみや雄複雌など様々な構成で社会生活を送っている。チンパンジーの疾患については、2009 年にハンセン病を発症したハルナは 1 年間の内服治療で軽快した。また、テツが心房細動とうっ血性心不全により利尿剤等で治療中である。

2) 施設に関する報告

第 5 飼育棟のチンパンジー運動場にある鉄塔を改修した。朽ちた丸太を撤去し、グレーチングの床板を設置した。作業用をかねて階段を取り付けた。また事務棟では、IPSTAR 衛星ブロードバンドの設置工事をおこなった。緊急時に備え、チンパンジーの捕獲訓練を 9 月に実施した。その他、故障やトラブルなどは発生しなかった

3) 研究・教育に関する報告

英文 6 報、和文 2 報、DVD 2 点を公表した。外部対応では、大学・民間研究機関より研究利用 2 件、資料提供 1 件、施設利用 3 件があった。CSU の見学は 35 組、90 名が訪れた。ホームページを毎月更新し、CSU の活動広報に勤めた。また熊本市動植物園が 2011 年春に新チンパンジー舎を建設するのに際し、設計、施工、飼育管理、企画展開催などの協力事業を推進した。動物園の飼育員や獣医師の研修を受け入れ、チンパンジーの群れ作りや環境エンリッチメント、馴致、健康診断の実施方法について技術提供をおこなった。CSU からチンパンジー 4 個体が熊本市動物園へ無事に移動し、今後も共同事業を推進する。

独立行政法人理化学研究所

「霊長類(マカクサル・マーモセット)の遺伝子多型と分子イメージングとの関連」に関する研究契約を継続した。

14. 共同研究者訪問履歴表

訪問日	終了日	日数	所属	職	人数	訪問目的
2010/5/10	2010/5/10	1	京大教育学部	先生	1	見学
2010/5/17	2010/5/17	1	京大理学部	学生	1	見学
2010/5/24	2010/5/24	1	愛知県警	警部補	2	見学
2010/6/7	2010/6/21	15	ガーナ大学	教授, 学生	6	セミナー
2010/6/23	2010/6/23	1		獣医師	1	大学院入学希望

2010/6/23	2010/7/4	12	東京大学	学生	1	実験
2010/6/24	2010/6/24	1	京大アジア・アフリカ研究科	研究者	1	研究打合せ
2010/6/24	2010/6/24	1	京都産業大学	准教授	1	研究打合せ
2010/7/1	2010/7/1	1	武庫川女子大	教授	1	研究打合せ
2010/9/6	2010/9/6	1	武庫川女子大	教授	1	研究打合せ
2010/9/7	2010/9/7	1	ガボン	研究者	3	研究打合せ
2010/9/15	2010/9/15	1	エジンバラ大	講師	2	研究打合せ
2010/9/16	2010/9/16	1	インドネシア, タイ	教授	4	研究打合せ
2010/9/16	2010/9/16	1	名古屋文理大学	教授	1	研究打合せ
2010/9/16	2010/9/16	1	京都大学	教授	1	研究打合せ
2010/9/24	2010/9/24	1	琉球大学	教授	4	研究打合せ
2010/10/27	2010/10/29	3	九州大学	院生	1	実験
2010/11/30	2010/12/1	2	静岡大学	学生	1	実験
2010/2/16	2010/2/16	1	森林総研	研究者	1	研究打合せ
2010/3/16	2010/3/16	1	静岡大学	学生	3	研究打合せ
計		48			37	

15. 海外拠点・海外機関との研究交流等

マレーシア・ダナンバレー拠点

マレーシア・サバ州・ダナンバレー保護区の調査基地 Kuala Sungai Danum Research Station を活用して、オランウータン、ヤマアラシ、ジャコウネコの研究をおこなった。

タンザニア拠点

タンザニアには、京都大学アフリカ類人猿調査拠点、アフリカ人類学・生物学研究フィールドセンター、およびウガラ野生動物フィールド研究拠点がある。これらの拠点を利用して以下の研究をおこなった。

- 1) サバンナウッドランドにおけるチンパンジーをはじめとする野生動物の生態学的研究
- 2) マハレ山塊における野生チンパンジー・大型哺乳動物の社会・生態学的研究
- 3) サバンナにおけるキリンの社会行動に関する研究

ガーナ大学との研究者交流

2009 年度にガーナ大学農業消費科学部と締結した研究交流協定にもとづき、以下の活動をおこなっている。

- 1) セミナーの開催:6 月にガーナ大学の研究者を日本に招聘し、国内協力機関の研究者とともに、京都大学においてセミナーを開催し、プロジェクトに関する意見交換を通じて実効力のある研究計画について意見交換した。9 月にはガーナ大学においてセミナーを開催した。
- 2) 共同研究:ガーナ各地の国立公園や保護区において、猛禽類や齧歯類の生態研究、鳥類の感染症研究のための予備調査をおこなった。動植物資源保全の基礎情報として、国立公園で糞を採取して DNA を抽出し、遺伝子解析によって種の同定をおこない、データベースを作製した。また鳥類および翼手類を霞網で捕獲し、糞や血液を採取して、ウイルスや菌の感染症の状況を調査した。ケーンラットの家畜化に向けて、生態や行動など基本情報および試料を収集し、多様性を解析した。また次世代シーケンサーを用いたゲノム配列解析により、遺伝マーカーの開発に着手した。
- 3) 若手研究者養成:ガーナ大学の大学院生 2 名を日本に招聘して、京都大学および岐阜大学で、遺伝子実験操作や感染症検査のトレーニングをおこなった。またガーナ大を訪問して、農業消

費科学部の学生に遺伝子解析の実習をおこなった。

16. 海外渡航

氏名	日程	用務先(国名)	用務	費用
西江仁徳	2010/4/1～ 4/14	タンザニア野生動物研究 所・マハレ山塊国立公園 (タンザニア連合共和国)	野生動物の研究資料収集	科研費
藤澤道子	2010/5/1～ 7/1	ボツウ村周辺(ギニア 共和国), AAP Exotic Animal Sanctuary, アー ネム動物園(オランダ王 国)	野生チンパンジーに関する研究 調査	ITP-HOPE
中林雅	2010/5/21 ～6/4	タビン野生動物保護区 (マレーシア)	大型動物相の季節的な遊動パタ ーン及びフェノロジー調査のため	科研費
宝田一輝	2010/5/21 ～8/18	シカゴ リンカーンパーク 動物園および園内フィッ シャー類人猿研究保全セ ンター(アメリカ合衆国)	リンカーン動物園内フィッシャー 類人猿研究保全センターの提供 するインターンシップに参加	AS-HOPE
吉田弥生	2010/6/4～ 6/20	Instituto Nacional de Pesquisas da Amazonia (ブラジル連邦共和国), Centro de Estudios Cien- tificos(チリ共和国)	南米に生息する野生小型ハクジ ラ類の音声行動に関する研究	AS-HOPE
幸島司郎	2010/6/4～ 6/21	ブラジル・アマゾン研究所 (ブラジル連邦共和国), チリ科学研究センターお よび南チリ大学(チリ共 和国)	アマゾンカワイルカおよびイロワ ケイルカの研究打合せ	AS-HOPE
佐々木友紀子	2010/6/4～ 6/21	Instituto Nacional de Pesquisas da Amazonia (ブラジル連邦共和国), Centro de Estudios Cien- tificos(チリ共和国)	南米に生息する野生小型ハクジ ラ類の音声行動に関する研究打 ち合わせ及び現地調査	科研費
中島麻衣	2010/6/5～ 12/16	タンザニア野生動物研究 所・マハレ山塊公園(タン ザニア連合共和国)	野生チンパンジーと飼育チンパ ンジーの行動の比較:環境が行 動にもたらす影響	ITP-HOPE
中村美知夫	2010/6/5～ 7/17	タンザニア野生動物研究 所・マハレ山塊公園(タン ザニア連合共和国)	野生動物の研究資料収集	科研費
飯田恵理子	2010/6/6～ 10/7	タンザニア野生動物研究 所(アルーシャおよびキ ゴマ)(タンザニア連合共 和国)	疎開林に棲息するブッシュハイ ックスの行動と生態に関する研究	ITP-HOPE
齋藤美保	2010/6/6～ 11/5	タンザニア, ウガラ地域 (タンザニア連合共和国)	カタビ国立公園におけるキリンの 社会行動, 社会構造に関する研 究	ITP-HOPE

中林雅	2010/6/11 ～6/22	フランス自然史博物館, モンペリエ Einstein Room (フランス共和国)	Frugivores and Seed Dispersal 学 会出席, 及び 共同研究打ち合 わせ	私費
伊谷原一	2010/6/14 ～6/28	キゴマ・ルクワ・タボラ州 (タンザニア連合共和国)	乾燥疎開林における野生動植物 相の調査	AS-HOPE
金森朝子	2010/6/14 ～7/9	ダナンバレー森林保護区 (マレーシア)	野性オランウータンの生態調査	運営費
森村成樹	2010/6/14 ～8/24	ボツソウ環境研究所 (ギ ニア共和国)	野生チンパンジーの離合集散性 と遊びに関する行動調査	AS-HOPE
金森朝子	2010/6/16 ～7/9	ダナンバレー森林保護区 (マレーシア)	野生ボルネオオランウータンの採 食行動に関する研究	AS-HOPE
松川あおい	2010/6/30 ～11/29	タビン野生生物保護区 (サバ州)(マレーシア)	マレーシア熱帯雨林に生息する ヤマアラシの生態学的研究	ITP-HOPE
中林雅	2010/7/2～ 12/1	タビン野生動物保護区 (マレーシア)	東南アジアに生息する果実食性 ジャコウネコ 4 種の 3 次元的空間 利用の把握と空間的住み分けの 解明	ITP-HOPE
久世濃子	2010/7/14 ～7/18	バリ島 (インドネシア共和 国)	オランウータン保護に関する国際 ワークショップでの研究発表	科研費
吉川翠	2010/7/19 ～9/9	キゴマ・ルクワ・タボラ州 (タンザニア連合共和国)	タンザニアの乾燥帯に生息する チンパンジー (Pan troglodytes) の生態研究	AS-HOPE
坂本英房	2010/8/16 ～8/25	ゴンベ国立公園・ミクミ国 立公園 (タンザニア連合 共和国)	野生チンパンジーの観察	AS-HOPE
阿部秀明	2010/8/19 ～9/11	カンボス・ド・ジョルダン (サンパウロ州・ブラジル 連邦共和国), 国立アマ ゾン研究所 (アマゾネス 州・同)	第 25 回国際鳥類学会での発表 および国立アマゾン研究所での 研究視察	AS-HOPE
松川あおい	2010/8/31 ～9/21	ダナンバレー調査基地 (サバ州)(マレーシア)	ボルネオの野生動物に関する研 究調査のため	私費
金田大	2010/9/19 ～10/21	ガーナ大学, Kakum 国立 公園, Shai-Hills 資源保 護区, Mole 国立公園, Boabeng-Fiema サル保護 区 (ガーナ共和国)	ガーナ大学におけるセミナー発 表および野外調査	AS-HOPE
伊藤亮	2010/10/5 ～11/5	モレ国立公園, シャイヒル ズ保護区, アンカサ保護 区, ブイ国立公園, カク ム国立公園 (ガーナ共和 国)	ガーナの野生ケーンラットの基礎 生態と, 生態系における他種との 相互作用の地域間比較	AS-HOPE
久世濃子	2010/10/25 ～11/8	ダナンバレー調査基地 (サバ州)(マレーシア)	野生ボルネオオランウータンの研 究資料収集	環境省地球 環境研究総 合推進費
幸島司郎	2010/10/28 ～11/9	インド科学大学生態学研 究センター (インド共和	野生動物に関する打合せ	AS-HOPE

		国), シンガポール動物園 (シンガポール共和国)		
澤栗秀太	2010/10/28 ～12/28	インド科学大学生態学研究センター, ムドゥマライ 国立公園 (及びバンディ プル国立公園), アリグナル ・アンナ動物園 (インド 共和国), シンガポール動 物園 (シンガポール共和 国)	ドール (<i>Cuon alpinus</i>) の音声行 動に関する研究, 及び野生個体 調査のための野外調査トレー ニング	ITP-HOPE
藤澤道子	2010/11/19 ～12/1	王立ブータン大学, 国立 博物館, JICA 事務所ほか (ブータン王国)	京都大学ブータン友好プログラム 第2次訪問団として共同研究打 合せ及び地形・植生・教育調査	AS-HOPE
伊藤亮	2010/11/25 ～2/17	ガーナ大学 (ガーナ共和 国)	野生動物に関する研究打合せ	環境省地球 環境研究総 合推進費
森村成樹	2010/11/28 ～12/2	梨花女子大学・韓国ソウ ル大学・ソウル動物園 (大韓民国)	飼育チンパンジーの共同研究打 ち合わせ	霊長類研究 所 (特別推 進)
村山美穂	2010/12/1 ～12/17	ガーナ大学 (ガーナ共和 国)	野生動物に関する研究打合せ	環境省地球 環境研究総 合推進費
金森朝子	2010/12/3 ～12/17	ダナンバレー森林保護区 (マレーシア)	野生ボルネオオランウータンの採 食行動に関する研究	AS-HOPE
吉川翠	2010/12/19 ～ 2011/3/20	キゴマ・ルクワ・タボラ州 (タンザニア連合共和国)	乾燥疎開林のチンパンジーの生 態調査	ITP-HOPE
佐々木友紀子	2011/1/14 ～3/27	Instituto Nacional de Pesquisas da Amazonia (ブラジル連邦共和国), Centro de Estudios Cien- tificos (チリ共和国)	南米に生息する野生小型ハクジ ラ類の音声行動に関する現地調 査	AS-HOPE
吉田弥生	2011/1/14 ～3/27	Instituto Nacional de Pesquisas da Amazonia (ブラジル連邦共和国), Centro de Estudios Cien- tificos (チリ共和国)	南米に生息する野生小型ハクジ ラ類の音声行動に関する現地調 査	ITP-HOPE
森村成樹	2011/1/15 ～3/15	ボツワ環境研究所(ギニ ア共和国)	野生チンパンジーの生態調査研 究	霊長類研究 所 (特別推 進)
久世濃子	2011/1/23 ～2011/2/4	ダナンバレー調査基地 (サバ州) (マレーシア)	野生ボルネオオランウータンの繁 殖に関する研究	AS-HOPE
幸島司郎	2011/1/28 ～2/1	マリオベイスンスタディセ ンター(マレーシア)	ボルネオの野生動物に関する研 究打合せ (MOU の締結) のため	運営費
藤澤道子	2011/2/21 ～3/16	西ニューギニア地域 (イ ンドネシア)	西ニューギニア地域における神 経変性疾患の実態調査	科研費
幸島司郎	2011/3/11	チリ科学研究センターお	パタゴニア北氷原における氷河	科研費

	～4/3	よび南チリ大学（チリ共和国）	生物調査	
金森朝子	2011/3/15 ～3/25	ダナンパレー森林保護区（マレーシア）	野生ボルネオオランウータンの採食行動に関する研究	AS-HOPE
中林雅	2010/3/24 ～3/31	ブータン王国	京都大学-ブータン友好関係構築の実現可能性の探索	AS-HOPE

17. 自己点検評価

野生動物研究センターで、重点的に取り組んでいる項目について、自己点検評価の概要を述べたい。

動物園との連携、研究・教育の推進

着実に進んでおり評価できる。連携する動物園と協力して情報交換・共同研究・教育普及を目的としたシンポジウムを開催できたことは今年の成果である。

共同利用拠点として機能の充実

目標どおりに進展しており、高く評価できる。今年度、平成 22 年 7 月 1 日付けで共同利用・共同研究拠点として文部科学大臣の認定を受けた。専門委員会などの組織を立ち上げ、共同利用の実施に向けて準備をおこない、公募研究の募集を開始した。今後、学内外の研究者と共同して、研究を進展させていくことが期待される。

海外研究拠点の整備、研究・教育の推進

着実に進んでいる。ボルネオでの研究協定が進展し、共同研究の体制が整ってきた。タンザニアの調査拠点では活発な研究がおこなわれた。ガーナ大学との研究交流は今年も引き続きおこなわれており、着実に進展している。

国内研究拠点の整備、研究・教育の推進

着実に進んでいる。DNA 分析を中心とした共同利用研究も順調におこなわれた。今年度は、次世代シーケンサーを導入することができた。今後の活用が期待される。幸島・屋久島の国内研究拠点では、活発な研究・教育活動がおこなわれた。

スペースの拡充

着実に進んでいるものの、まだ十分ではない。関田南研究棟（旧学生支援機構）の当センターへの割り当てが確定し、年度末に、1 階と地下の一部を改修した。これにより、大学院生が関田南研究棟に移動し、学生と教員が離れた場所にいるという状態は解消された。ただし、スペースはまだ十分でなく、今後も人数が増えることが予想されるので、さらに居住環境の整備をすすめる必要がある。

教育・研究

着実に進んでいる。当センターで初めて、修士課程の修了者を出すことができた。完成度にはばらつきはあるものの、オリジナリティーの高い研究をおこなっていることは評価できる。

18. 2010 年度研究業績

執筆文章 (和文)

- 阿部秀明, 今野晃嗣, 村山美穂 (2010) ワシミミズク属におけるドーパミン受容体 D4 遺伝子の多型. 「DNA 多型」18: 25-31.
- 飯田恵理子 (2010) 岩場に棲息する変な動物ハイラックス. 「マハレ珍聞」16: 1-2.
- 飯田恵理子 (2010) 追悼ハミシブネングワさん—葬儀に参列して. 「マハレ珍聞」16: 4.
- 伊藤詞子 (2011) フィールドワーカーの靴. 「Field+」201101 no.5. 裏表紙.
- 伊谷原一 (2011) フィールドワークからライフサイエンスまで. 中国・日本科学最前線—研究の現場から. 「2011 年版: 独立行政法人科学技術振興機構 (JST) 中国総合研究センター」 pp. 593-597.
- 伊谷原一 (2011) コンゴ盆地の黒い妖精・ボノボ. 「生き物たちのつづれ織り」4: 45-51.
- 幸島司郎 (2010) 動物園・水族館とフィールド研究者の連携—多様性研究の視点から. 「科学」80(10): 1010-1014.
- 幸島司郎 (2010) 雪氷環境に生息する耐低温性昆虫. 「昆虫の低温耐性—その仕組みと調べ方—」積木久明, 田中一裕, 後藤三千代 (編), 岡山大学出版会.
- 中村美知夫 (2010) 「接触」という相互行為—原初的対称性から考える社会性の進化. 「人間文化」27: 8-12.
- 中村美知夫 (2010) 社会が複雑であるとはどういうことか?—社会と個体の関わりについての問題提起. 「霊長類研究」26: 131-142.
- 中村美知夫 (2010) リプライ—全体性と歴史性と分らないさ. 「霊長類研究」26: 205-209.
- 田中正之 (2011) 動物園で動物たちの心を探る. 「生き物たちのつづれ織り」4: 157-162.
- 原村隆司, 田畑諒一, 宝田一輝 (2011) オタマジャクシを使った呼吸行動の観察—鰓呼吸から肺呼吸への変化. 「生物教育」51: 25-31.

執筆文章 (英文)

- Abe H, Ito S, Inoue-Murayama M. (2011) Polymorphisms in the extracellular region of dopamine receptor D4 within and among avian orders. *Journal of Molecular Evolution*, 72: 253-264.
- Chan Y-C, Roos C, Inoue-Murayama M, Inoue E, Shih C-C, Pei K J-C, Vigilant L. (2010) Mitochondrial genome sequences effectively reveal the phylogeny of *Hylobates* gibbons. *PLOS ONE*, e14419.
- Inoue-Murayama M, Inoue E, Watanabe K, Takenaka A, Murayama Y. (2010) Box I: Behavior-related candidate genes. In: Nakagawa N, Nakamichi M, Sugiura H (eds), *The Japanese Macaques*. Tokyo, Springer, pp. 293-301.
- Inoue-Murayama M, Weiss A, Morimura N, Tanaka M, Yamagiwa J, Idani G (2011) Molecular behavioral research in great apes. In: Inoue-Murayama M, Kawamura S, Weiss A (eds), *From Genes to Animal Behavior*. Tokyo, Springer, pp. 239-253.

- ior. Tokyo, Springer, pp. 239-253.
- Kanamori T, Kuze N, Bernard H, Malim TP, Kohshima S. (2010) Feeding ecology of Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus morio*) in Danum Valley, Sabah, Malaysia: a 3-year record including two mast fruitings. *American Journal of Primatology* 71: 820-840.
- Kayang BB, Youssao I, Inoue E, Naazie A, Abe H, Ito S, Inoue-Murayama M. (2010) Genetic diversity of helmeted guineafowl (*Numida meleagris*) based on microsatellite analysis. *Japan Poultry Science* 47: 120-124.
- Koda H, Sugiura H. (2010) The ecological design of the affiliative vocal communication style in wild Japanese macaques: behavioral adjustments to social contexts and environments. In: Nakagawa N, Nakamichi M, Sugiura H (eds), *The Japanese Macaques*. Tokyo, Springer, pp 167-189.
- Langergraber KE, Boesch C, Inoue E, Inoue-Murayama M, Mitani JC, Nishida T, Pusey A, Reynolds V, Schuber G, Wrangham RW, Wroblewski E, Vigilant L. (2011) Genetic and 'cultural' similarity in wild chimpanzees. *Proceedings of the Royal Society B Biological Sciences* 278: 408-416.
- Minvielle F, Bed'hom B, Coville JL, Ito S, Inoue-Murayama M, Gourichon D. (2010) The "silver" Japanese quail and the MITF gene: causal mutation, associated traits and homology with the "blue" chicken plumage. *BMC Genetics* 11: 15.
- Miyabe-Nishiwaki T, Kaneko A, Nishiwaki A, Watanabe S, Maeda N, Kumazaki K, Morimoto M, Hirokawa R, Suzuki J, Ito Y, Hayashi M, Tanaka M, Tomonaga M, Matsuzawa T. (2010) Tetraparesis resembling acute transverse myelitis in a captive chimpanzee (*Pan troglodytes*): long-term care and recovery. *Journal of Medical Primatology* 39: 336-346.
- Morimura N, Idani G, Matsuzawa T. (2010) The first chimpanzee sanctuary in Japan: an attempt to care for the "surplus" of biomedical research. *American Journal of Primatology* 71: 1-7.
- Morimura N, Mori Y. (2010) Effect of early rearing conditions on problem solving by chimpanzees. *American Journal of Primatology* 72: 626-633.
- Morisaka T, Kohshima S, Yoshioka M, Suzuki M, Nakahara F. (2010) Recent studies on captive cetaceans in Japan: working in tandem with studies on cetaceans in the wild. *International Journal of Comparative Psychology* 23: 644-663.
- Morisaka T, Karczmarski L, Akamatsu T, Sakai M, Dawson S, Thornton M. (2011) Echolocation signals of Heaviside's dolphins (*Cephalorhynchus heavisidii*). *The Journal of the Acoustical Society of America* 129: 449-457.
- Nakagawa N, Nakamichi M, Sugiura H. 2010. *The Japanese Macaques*. Primatology Monographs. Tokyo: Springer. 402 pages.
- Nakamura M. (2010) Ubiquity of culture and possible social inheritance of sociality among wild chimpan-

- zees. In: *The Mind of the Chimpanzee: Ecological and Experimental Perspectives*, Lonsdorf EV, Ross SR, Matsuzawa T (eds), University of Chicago Press, pp. 156–167.
- Nakamura M. (2010) Poke-type social scratching persists at Mahale. *Pan Africa News* 17: 15–17.
- Nakashima Y, Inoue E, Inoue-Murayama M., Abd Sukor JR. (2010) Functional uniqueness of a small carnivore as seed dispersal agents: a case study of the common palm civets in the Tabin Wildlife Reserve, Sabah, Malaysia. *Oecologia* 164: 721–730.
- Sakai T, Hirai D, Mikami A, Suzuki J, Hamada Y, Tomonaga M, Tanaka M., Miyabe-Nishiwaki T, Maki-shima H, Nakatsukasa M, Matsuzawa T. (2010) Prolonged maturation of prefrontal white matter in chimpanzees. *Nature Precedings* 4411: 1.
- Segawa T, Takeuchi N, Ushida K, Kanda H, Kohshima S. (2010) Altitudinal changes in a bacterial community on Gulkana Glacier in Alaska. *Microbes and Environments* 25: 171–182.
- Segawa T, Ushida K, Narita H, Kanda H, Kohshima S. (2010) Bacterial communities in two Antarctic ice cores analyzed by 16S rRNA gene sequencing analysis. *Polar Science* 4: 215–227.
- Sin HS, Koh E, Kim DS, Murayama M., Sugimoto K, Maeda Y, Yoshida A, Namiki M. (2010) Human endogenous retrovirus K14C drove genomic diversification of the Y chromosome during primate evolution. *Journal of Human Genetics* 55: 717–725.
- Suzuki K, Udono T, Fujisawa M., Tanigawa K, Idani G., Ishii N. (2010) Infection during infancy and long incubation period of leprosy suggested in a case of a chimpanzee used for medical research. *Journal of Clinical Microbiology* 48: 3432–3434.

学会等での発表・講演（日本語）

- 飯田恵理子, 中村美知夫, 伊谷原一 (2010) タンザニアの疎開林に棲息するブッシュハイラックスの単独オスの日周行動パターン. SAGA13 シンポジウム (2010/11, 神奈川).
- 石黒雄大, 高井進, 山下直樹, 長尾充徳, 釜鳴宏枝, 山本裕己, 田中正之 (2010) 飼育下フサオマキザルのオス間に見られた攻撃的交渉の調節過程. 第 13 回 SAGA シンポジウム. (2010/11, 神奈川).
- 石黒雄大, 高井進, 山下直樹, 長尾充徳, 釜鳴宏枝, 山本裕己 (2011) 飼育下フサオマキザルにおけるグルーミングの機能—グルーミングの多義性とその利用. ず〜どすえ。動物園大学 in 京都. (2011/03, 京都).
- 伊藤詞子 (2011) 境界を創り出す—ヒトとチンパンジーの相互行為の事例紹介. 第一回境界研究会 (2011/02, 京都).
- 伊藤詞子, 中村美知夫, 五百部裕, 上原重男, 座馬耕一郎, Seimon A, Pintea L, 西田利貞 (2010) マハレ山塊国立公園の野生チンパンジーを取り巻く環境の長期的変動. SAGA13. (2010/11, 神奈川).
- 岡部光太, 田中正之, 柳本博, 松岡賢司, 水野章裕,

- 岩橋宣明, 佐々木智子, 伊藤英之 (2011) アジアゾウの夜間行動観察. ず〜どすえ。動物園大学 in 京都. (2011/03, 京都).
- 落合大平知美, 伊谷原一, 佐藤義明, 打越万喜子, 松沢哲郎 (2010) NBRP「GAIN (大型類人猿情報ネットワーク)」—チンパンジー・ゴリラ・オランウータンのデータベースの拡充. 第 33 回日本分子生物学会年会・第 83 回日本生化学会大会合同大会. (2010/12, 神戸).
- 齋藤美保 (2010) キリンの野生の暮らしを見てみよう! ず〜どすえ。動物園大学 in 京都. (2011/03, 京都).
- 酒井朋子, 三上章允, 平井大地, 鈴木樹理, 濱田穰, 友永雅己, 田中正之, 宮部-西脇貴子, 巻島美幸, 中務真人, 松沢哲郎 (2010) チンパンジー乳児の脳成長様式はヒトの脳進化を理解する上での重要な手がかりになる—縦断的 MRI 研究からの考察. 第 64 回日本人類学会大会 (2010/10, 伊達).
- 坂本英房, 中野和彦, 渡辺英博, 岡橋要, 田中正之 (2010) アムールトラの周産期行動の観察. 第 13 回 SAGA シンポジウム. (2010/11, 神奈川).
- 佐々木友紀子, 岩崎真里, 荒井一利, 幸島司郎 (2010) 飼育下シャチにおけるコールタイプの日周変化. 日本動物行動学会第 29 回沖縄大会 (2010/11, 那覇).
- 杉浦秀樹 (2011) 屋久島におけるニホンザル行動域の長期的な移動. 日本生態学会第 58 回全国大会 (2011/03, 札幌).
- 鈴木真理子, 杉浦秀樹 (2011) 森林の視界環境がニホンザルの他個体モニタリング行動に与える影響. 日本生態学会第 58 回全国大会 (2011/03, 札幌).
- 鈴木崇文, 冠地富士男, 杉浦秀樹, 松沢哲郎, 伊谷原一 (2010) 幸島野性ニホンザルにおける 58 年間の人口統計学的解析. 第 13 回 SAGA シンポジウム. (2010/11, 神奈川).
- 宝田一輝, 長尾充徳, 釜鳴宏枝, 山本裕己, 田中正之 (2010) 飼育下ゴリラの夜間行動分析. 第 13 回 SAGA シンポジウム. (2010/11, 神奈川).
- 宝田一輝, 長尾充徳, 釜鳴宏枝, 山本裕己, 田中正之 (2011) 動物園のニシゴリラにとって来園者とは? . 第 7 回 ヒトと動物の関係学会 学生院生学術発表審査会 (2011/01, 京都).
- 宝田一輝, 長尾充徳, 釜鳴宏枝, 山本裕己, 田中正之 (2011) 動物園のゴリラは夜, 何をしているの? ず〜どすえ。動物園大学 in 京都. (2011/03, 京都).
- 田中正之 (2010) 飼育下霊長類3種におけるアラビア数系列の学習—京都市動物園における比較認知科学研究 (2). 日本心理学会第 74 回大会 (2010/09, 大阪).
- 田中正之 (2010) 比較認知的科学的アプローチ—チンパンジー研究はヒトの語彙研究にどう貢献できるか? 日本心理学会第 74 回大会ワークショップ「人の語彙システム研究の多面的アプローチ—回顧と展望 2010 年」 (2010/09, 大阪).
- 田中正之 (2010) チンパンジーのお絵かきと絵 (pictogram) の認識: 絵を描かないチンパンジーは絵をどう理解しているか? 人類動態学会「くらしの中の共生」第 7 回シンポジウム「くらしの中の絵文字 (pictogram)

- の活用と効果」(2010/11, 調布).
- 田中正之, 伊藤二三夫, 松永正之, 山本裕己, 國本幸子 (2011) ヤブイヌ夫婦の子育て奮闘記. ず〜どすえ. 動物園大学 in 京都. (2011/03, 京都).
- 田中正之, 國本幸子, 松永雅之, 伊藤二三夫, 山本裕己 (2010) 学習場面を利用したチンパンジーの行動モニタリング. 第13回 SAGA シンポジウム. (2010/11, 神奈川).
- 寺本研, 森裕介, 藤澤道子, 野上悦子, 森村成樹, 鶴殿俊史, 小林久雄, 伊谷原一 (2010) チンパンジーの施設間移動におけるチンパンジー・サンクチュアリ・宇土と動物園との連携. 第13回 SAGA シンポジウム. (2010/11, 神奈川).
- 長尾充徳, 釜鳴宏枝, 田中正之 (2010) ニシゴリラの快適な飼育環境にむけての取り組み. 第13回 SAGA シンポジウム. (2010/11, 神奈川).
- 中島麻衣 (2011) 見たい! 知りたい! チンパンジーの野生ライフ. ず〜どすえ. 動物園大学 in 京都. (2011/03, 京都).
- 中林雅 (2011) ネコではないのにジャコウネコ. ず〜どすえ. 動物園大学 in 京都. (2011/03, 京都).
- 中村美知夫 (2011) 構築されるチンパンジーのドミナス—まばらな交渉マトリクスから導かれるチンパンジーのメスのドミナンス順位の検討. 「ヒトを含む霊長類における社会的インタラクションの研究」研究会. (2011/01, 山梨).
- 中村美知夫 (2010) 継承されるシステムの一つとしての制度—動物から制度を考える. 2010年度第2回「人類社会の進化史的基盤研究(2)」研究会. (2010/07, 東京).
- 中村美穂, 森村成樹 (2010) Jokro: The death of an infant chimpanzee 日本語字幕版 DVD. 第13回 SAGA シンポジウム (2010/11, 神奈川).
- 中村美穂, 森村成樹, 藤澤道子, 野上悦子 (2010) 森をつなぐ—心をつなぐ ボツウ・ニンバ緑の回廊プロジェクト DVD. 第13回 SAGA シンポジウム. (2010/11, 神奈川).
- 夏目尊好, 中島麻衣, 丸川昌輝, 須田直子, 友永雅己 (2010) ニホンザルのあかんぼうにおける固形飼料洗い行動の獲得と伝播. 日本動物心理学会第70回大会 (2010/08, 東京).
- 夏目尊好, 中島麻衣, 丸川昌輝, 須田直子, 松沢哲郎 (2010) ニホンザルのあかんぼうにおける固形飼料洗い行動の獲得と伝播. 第13回 SAGA シンポジウム (2010/11, 神奈川).
- 西江仁徳 (2011) 人間そっくり? —あるチンパンジーの死にまつわるエピソードから. 第1回境界研究会 (2011/02, 京都).
- 西江仁徳 (2011) アルファオスとは「誰のこと」か? : マハレ M 集団のチンパンジー社会におけるアルファオスの失踪と順位下落をめぐる事例から. 2010年度第5回「人類社会の進化史的基盤研究(2)」研究会 (2011/03, 東京).
- 野上悦子 知つとるね? チンパンジー. ず〜どすえ. 動物園大学 in 京都. (2011/03, 京都).
- 早野あづさ, 幸島司郎, 吉岡基, 関口雄祐, 森阪匡通, 白木原美紀, 篠原正典, 小木万布, 酒井麻衣, 天野雅男, 鳥羽山照夫, 内田詮三, 濱崎英治, 中村雅之, 漁野真弘, 原口涼子, 菱井徹, 森恭一 (2010) ミトコンドリア DNA (mtDNA) 解析からみた伊豆鳥島周辺に生息するハンドウイルカ属 (genus *Tursiops*) の種同定および遺伝的組成. 第16回野生生物保護学会・日本哺乳類学会 2010年度合同大会 (2010/09, 岐阜).
- 村山美穂 (2010) ゾウの性格に関与する遺伝子の探索. ゾウ会議 (2010/10, 京都)
- 村山美穂 (2010) 動物園からはじまる DNA 研究. SA-GA13 (2010/11, 相模原).
- 村山美穂, 早野あづさ, 友永雅己, 今野晃嗣, 上野友香, 斉藤豊, 篠原正典 (2010) イルカの性格を遺伝子から知る. 勇魚会 (2011/02, 東京).
- 村山美穂, 早野あづさ, 阿部秀明, 坂井寛子, 前田琢 (2010) 岩手を中心としたニホンイヌワシの遺伝的多様性. 日本生態学会第58回全国大会 (2011/03, 札幌).
- 森裕介, 鶴殿俊史, 小林久雄, 野上悦子, 藤澤道子, 森村成樹 (2010) チンパンジー・サンクチュアリ・宇土におけるチンパンジー雄集団の群れ作りと復帰個体の再編入. 第13回 SAGA シンポジウム. (2010/11, 神奈川).
- 森阪匡通, 酒井麻衣 (2010) イルカの子育て. 日本心理学会第74回大会シンポジウム「ヒトを含む哺乳類の子育て—海生哺乳類, 大型草食動物から霊長類まで」(2010/09, 大阪).
- 安井早紀, 今野晃嗣, 田中正之, 伊谷原一, 井上-村山美穂 (2010) ゾウの性格を知ろう. ず〜どすえ. 動物園大学 in 京都 (2011/03, 京都).
- 安井早紀, 吉原正人, 楠田哲士, 村山美穂 (2010) 糞及び口内細胞由来の DNA を用いた国内飼育キリンの亜種判別. 日本 DNA 多型学会第19回学術集会 (2010/11, 三島).
- 吉川翠, 小川秀司, Mbalamwezi M, 小金澤正昭, 伊谷原一 (2010) 乾燥疎開林におけるチンパンジーのベッドの崩壊速度. 日本動物行動学会第29回沖縄大会. (2010/11, 那覇).
- 和田晴太郎, 黒鳥英俊, 中西宣夫, 小川光輝, 小川直子 (2011) 吊り橋プロジェクトに参加して. ず〜どすえ. 動物園大学 in 京都. (2011/03, 京都).

学会等での発表・講演 (英語)

- Abe H, Inoue E, Kato K, Inoue-Murayama M. (2010) DNA barcoding for species identification of African birds. Special Seminar: Collaboration for Conservation and Sustainable Utilization of Wildlife Resources in Ghana (2010/06, Kyoto).
- Abe H, Kinoshita K, Nakamura A, Nagao K, Hayakawa H, Nirasawa K, Ito S, Inoue-Murayama M. (2010) VNTR polymorphism in serotonin transporter gene detected in birds and its relation to behavioral traits. 25th International Ornithological Congress (2010/08, Brazil).
- Abe H, Takeuchi H, Yamada S, Nakamura A, Nagao K, Hayakawa H, Nirasawa K, Ito S, Inoue-Murayama M. (2010) VNTR polymorphisms of serotonin transporter

- gene in chicken and its relation to impulsive behavior. The 15th Kyoto University International Symposium: Biodiversity, Zoos and Aquariums “The Message from Animals” (2010/09, Nagoya).
- Adenyo C, Hayano A, Kayang BB, Inoue-Murayama M. (2010) Genetic analysis of cane rat (*Thryonomys swinderianus*) in Ghana. Special Seminar: Collaboration for Conservation and Sustainable Utilization of Wildlife Resources in Ghana. (2010/06, Kyoto).
- Adenyo C, Hayano A, Kayang BB, Inoue-Murayama M. (2010) Genetic analysis of cane rat (*Thryonomys swinderianus*) in Ghana. Special Seminar: Conservation and Sustainable Use of Ghanaian Wildlife Resources: Veterinary, Genetic and Ethological Approach (2010/09, Accra).
- Adenyo C, Hayano A, Kayang BB, Inoue-Murayama M. (2010) Genetic analysis of cane rat (*Thryonomys swinderianus*) in Ghana. The 4th International Symposium of the Biodiversity & Evolution. Global COE Project (2010/09, Kyoto).
- Bodington D, Segawa T, Hongoh Y, Kohshima S. (2010) Altitudinal change in bacterial communities of a glacial environment, analysed by 16S rRNA gene sequencing and fluorescence in situ hybridization. 日本雪氷学会 (2010/09, Sendai)
- Kayang BB, Osei-Amponsah R, Naazie A, Inoue E, Inoue-Murayama M. (2010) Characterization of local chicken in Ghana. Special Seminar: Collaboration for Conservation and Sustainable Utilization of Wildlife Resources in Ghana (2010/06, Kyoto).
- Konno A, Inoue-Murayama M, Hasegawa T. (2010) Association between gene polymorphisms and behavioral phenotypes in Japanese Akita dog. Canine Science Forum (2010/08, Vienna).
- Hayano A, Yamada TK, Kuramochi T, Kakuda T, Amano M, Miyazaki N (2010) Genetic diversity of stranded dolphins: a case study of melon-headed whales (*Peponocephala electra*) on the Japanese coast. Special Seminar: Collaboration for Conservation and Sustainable Utilization of Wildlife Resources in Ghana. (2010/06, Kyoto)
- Hori Y, Kishi H, Inoue-Murayama M, Fujita K. (2010) Individual variability in response to human facial expressions among dogs Canine Science Forum (2010/08, Vienna).
- Idani G. (2010) Studies and conservation activities of wild bonobos at Wamba in the Luo Scientific Reserve, Democratic Republic of the Congo. The 15th Kyoto University International Symposium: Biodiversity, Zoos and Aquariums “The Message from Animals” (2010/09, Nagoya).
- Idani G. (2010) From the bonobos’ forest to the chimpanzees’ woodland. International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).
- Inoue-Murayama M. (2010) Plan for the future collaboration between Ghana and Japan. Special Seminar: Collaboration for Conservation and Sustainable Utilization of Wildlife Resources in Ghana. (2010/06, Kyoto).
- Inoue-Murayama M. (2010) Promoting mutual cooperation between University of Ghana and Kyoto University: comparative study of dog-human association. Special Seminar: Conservation and Sustainable Use of Ghanaian Wildlife Resources: Veterinary, Genetic and Ethological Approach (2010/12, Accra).
- Inoue-Murayama M, Hayano A, Abe H, Yasui S. (2010): Genetic study of wild animals in Japanese zoos and aquariums. The 15th Kyoto University International Symposium: Biodiversity, Zoos and Aquariums “The Message from Animals” (2010/09, Nagoya).
- Inoue-Murayama M, Weiss A, Kato K, Morimura N, Tanaka M, Yamagiwa J, Idani G. (2010) Molecular behavioral research in great apes. International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).
- Itoh N. (2010) Effects of vegetation and phenology on chimpanzee foraging in the Mahale Mountains National Park, Tanzania. International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).
- Iwasaki M, Sasaki Y, Arai K, Kohshima S. (2010) How do captive killer whales rest and sleep? The 15th Kyoto University International Symposium: Biodiversity, Zoos and Aquariums “The Message from Animals” (2010/09, Nagoya).
- Kanamori T, Kuze N, Bernard H, Malim TP, Kohshima S. (2010) Feeding ecology of Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus morio*) in Danum Valley, Sabah, Malaysia: a 3-year record including two mast fruitings. The 15th Kyoto University International Symposium: Biodiversity, Zoos and Aquariums “The Message from Animals” (2010/09, Nagoya).
- Kishi H, Krone O, Galaverni M, Randi E, Inoue-Murayama M. (2010) The diversity of genes related to personality in wolves. The 4th International Symposium of the Biodiversity & Evolution. Global COE Project (2010/09, Kyoto).
- Kishi H, Krone O, Galaverni M, Randi E, Chaya K, Miura M, Ueda M, Inoue-Murayama M. (2010) The diversity of genes related to personality in wolves. The 15th Kyoto University International Symposium: Biodiversity, Zoos and Aquariums “The Message from Animals” (2010/09, Nagoya).
- Kohshima S, Sekiguchi Y, Arai K, Kobayashi H. (2010) Possibility and advantages of studying wild animals in zoos and aquariums: examples from Japan. The 15th Kyoto University International Symposium: Biodiversity, Zoos and Aquariums “The Message from Animals” (2010/09, Nagoya).
- Konno A, Morimura N, Tanaka M, Ushida K, Kusuda S, Udono T, Okahashi K, Yamamoto Y, Matsunaga M, Ito F, Inoue-Murayama M, Hasegawa T, Tomonaga M. (2010) Inter-institutional transfer of captive chimpanzees: a case study of relationships among behavior, personality, and “quality of life”. International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).

- Makishima H, Sakai T, Mikami A, Hirai D, Nishimura T, Suzuki J, Hamada Y, Tomonaga M, Tanaka M, Miyabe T, Nakatsukasa M, Matsuzawa T. (2010) Longitudinal development of volumetric cerebral asymmetries of chimpanzees. The International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).
- Morimura N, Fujisawa M, Nogami E. (2010) Welfare study and care management in the chimpanzee sanctuary Uto. International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).
- Morisaka T. (2010) Acoustic communication by dolphins: an evolutionary perspective. 15th Biennial Scientific Meeting of the International Society for Comparative Psychology (2010/05, Awaji).
- Morisaka T. (2010) Evolution of sound in cetaceans. The 4th International Symposium of the Biodiversity & Evolution Global COE Project (2010/09, Kyoto).
- Morisaka T, Yoshida Y, Akune Y, Mishima H, Nishimoto S. (2010) Vocal exchange in captive beluga whales. The 15th Kyoto University International Symposium: Biodiversity, Zoos and Aquariums "The Message from Animals" (2010/09, Nagoya).
- Nakagawa N, Sugiura H, Matsubara M, Hayakawa S, Fujita S, Suzuki S, Shimooka Y, Nishikawa M. (2010) Local differences in mating patterns in Japanese macaques (*Macaca fuscata*). International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).
- Nishida T, Inaba A, Itoh N, Kooriyama T, Nakamura M, Nishie H, Sakamaki T, Zamma K. (2010) How adult male chimpanzees of Mahale acquire the alpha status? International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).
- Nishie H. (2010) Ecological context of Camponotus ant-fishing among the M group chimpanzees in Mahale Mountains National Park, Tanzania. International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).
- Sakai M, Kogi K, Arai K, Kohshima S. (2010) A comparative study of flipper rubbing behavior in genus *Tursiops*. The 15th Kyoto University International Symposium: Biodiversity, Zoos and Aquariums "The Message from Animals" (2010/09, Nagoya).
- Sasaki-Yamamoto Y, Iwasaki M, Arai K, Kohshima S. (2010) Diurnal change of call-type in captive killer whales. The 15th Kyoto University International Symposium: Biodiversity, Zoos and Aquariums "The Message from Animals" (2010/09, Nagoya).
- Shimooka Y, Sugiura H, Link A, Di Fiore A. (2010) Vocal emission at fission-fusion events of spider monkeys in comparison with Japanese macaques. International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).
- Sugawara T, Go Y, Udono T, Morimura N, Tomonaga M, Hirai H, Imai H. (2010) Diversification of bitter taste receptor gene family in chimpanzees. International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).
- Sugiura H, Shimooka Y, Tsuji Y. (2010) Variation in interindividual spacing and behavioral correlates in a group of Japanese macaques. International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).
- Suzuki M, Sugiura H. (2010) Age-sex difference in the rate of contact calls in Japanese macaques. The International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).
- Suzumura T, Kanchi F, Sugiura H, Matsuzawa T, Idani G. (2010). Demographic data of wild Japanese monkeys on Koshima Island: preliminary analysis of the period 1952–2009. International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).
- Tanaka M, Ito F, Matunaga M, Yamamoto Y. (2010) Perinatal behaviors in bush dogs (*Speothos venaticus*). The 15th Kyoto University International Symposium: Biodiversity, Zoos and Aquariums "The Message from Animals" (2010/09, Nagoya).
- Tanaka M, Yamashita N, Nagao M, Kamanaru H, Ito H, Yamamoto Y. (2010) Social facilitation of learning of a computer-based task in captive group of mandrills (*Mandrillus sphinx*). The International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).
- Ramadan S, Abe H, Hayano A, Yamaura J, Miyake T, Inoue-Murayama M. (2010) Analysis of genetic diversity of Egyptian native livestock based on microsatellite markers. Special Seminar: Collaboration for Conservation and Sustainable Utilization of Wildlife Resources in Ghana. (2010/06, Kyoto).
- Ramadan S, Abe H, Hayano A, Yamaura J, Miyake T, Inoue-Murayama M. (2010) Analysis of genetic diversity of Egyptian native livestock based on microsatellite markers. The 15th Kyoto University International Symposium: Biodiversity, Zoos and Aquariums "The Message from Animals" (2010/09, Nagoya).
- Yamamoto S, Yamakoshi G, Humle T, Tanaka M, Matsuzawa T. (2010) Possible cumulative culture in chimpanzees: invention, modification, and learning of tool-use technique. The International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).
- Yasui S, Konno A, Tanaka M, Idani G, Inoue-Murayama M. (2010) Factors contributing to personality in captive elephants. The 15th Kyoto University International Symposium: Biodiversity, Zoos and Aquariums "The Message from Animals" (2010/09, Nagoya).
- Yoshida Y, Morisaka T, Sakai M, Iwasaki M, Wakabayashi I, Seko A, Kasamatsu M, Fukuzawa H, Akamatsu T, Kohshima S. (2010) Acoustic behavior of captive Commerson's dolphin "Do they use the pulse sound for communication?". The 4th International Symposium of the Biodiversity & Evolution Global COE Project (2010/09, Kyoto).
- Yoshida Y, Morisaka T, Sakai M, Iwasaki M, Wakabayashi I, Seko A, Kasamatsu M, Fukuzawa H, Akamatsu T, Kohshima S. (2010) Acoustic behavior of captive Commerson's dolphins (*Cephalorhynchus commersonii*). The 15th Kyoto University International Sym-

posium: Biodiversity, Zoos and Aquariums “The Message from Animals” (2010/09, Nagoya).

Yoshikawa M., Ogawa H, Koganezawa M, Idani G. (2010) Habitat selection by chimpanzees (*Pan troglodytes*) in savanna woodland, western Tanzania. International Primatological Society XXIII Congress (2010/09, Kyoto).

制作した映像・番組

「イリオモテヤマネコ・謎の生態に迫る」NHK BS ハイビジョン プレミアム 8 ワイルドライフ. 2010年5月10日
<http://www.nhk.or.jp/wildlife/program/p035.html>
(中村美穂)

受賞

宝田一輝, 長尾充徳, 釜鳴宏枝, 山本裕己, 田中正之 (2011) 動物園のニシゴリラにとって来園者とは? . 第7回 ヒトと動物の関係学会 学生院生学術発表審査会. 奨励賞受賞.

学会活動等

日本霊長類学会

評議員: 伊谷原一, 杉浦秀樹, 中村美知夫

ヒトと動物の関係学会

常任理事: 伊谷原一

評議員: 村山美穂

大型類人猿保全計画日本委員会 (GRASP-Japan)

理事: 伊谷原一, 中村美知夫

第23回国際霊長類学会大会

募金委員長: 伊谷原一

総務委員長: 中村美知夫

旅行委員長: 杉浦秀樹

総務委員: 村山美穂, 田中正之

旅行委員: 田中正之, 鈴木崇文

教育・啓発委員: 坂本英房

プレコングレス・ワークショップ委員: 伊藤詞子

Scientific committee: 村山美穂, 田中正之

日本動物遺伝育種学会

理事: 村山美穂

日本DNA多型学会

評議員: 村山美穂

生態人類学会

理事: 中村美知夫

19. 新聞・雑誌・TV等での紹介

チンパンジーのお勉強—スランプなんです… 読売新聞オンライン 2010年4月1日 (田中正之).

おばあちゃん, おっばい—岡山 母ざるに代わり孫の世話. 朝日新聞 2010年4月11日 (伊谷原一).

チンパンジーのお勉強—妹も勉強を始めました. 読売新聞オンライン 2010年4月15日 (田中正之).

健診の季節 チンパンジーの場合. 毎日新聞大阪版夕刊 2010年5月6日 (田中正之).

チンパンジーのお勉強—どうした タカシ!? 読売新聞オ

ンライン 2010年5月11日 (田中正之).

あさイチ「スゴ技Q こんなに楽しい! 動物園」. NHK 2010年5月18日 (田中正之).

チンパンジーのお勉強—スズミは気まぐれ. 読売新聞オンライン 2010年5月24日 (田中正之).

京都市動物園 チンパンジー勉強中 得意科目は算数? 京都新聞 2010年5月30日 (田中正之).

チンパンジーのお勉強—お勉強が始まって1年. 読売新聞オンライン 2010年6月2日 (田中正之).

チンパンジーのお勉強—1年間を振り返って (1). 読売新聞オンライン 2010年6月14日 (田中正之).

「京いちにち」特集「ラブ☆ラボ: チンパンジーからヒトへの進化をさぐれ」. NHK ニュース 610 2010年6月15日 (田中正之).

チンパンジーのお勉強—1年間を振り返って (2) 読売新聞オンライン 2010年6月15日 (田中正之).

チンパンジーのお勉強—1年間を振り返って (3) 読売新聞オンライン 2010年6月16日 (田中正之).

「ダーウィンが来た!」NHK 2010年7月5日 (鈴木崇文, 冠地富士男).

真夏のベビーラッシュ! 読売新聞オンライン 2010年8月2日 (田中正之).

チンパンジーのお勉強—学習を続けるチンパンジー. 読売新聞オンライン 2010年8月5日 (田中正之).

「京いちにち」特集「ラブ☆ラボ総集編」NHK ニュース 610 2010年8月17日 (田中正之).

道具文化 もっと古くから?—340 万年前の石器使用痕発見. 読売新聞 2010年8月31日 (中村美知夫).

京都市動物園: 学習のチンパンジー, 仲間の死で意欲去る. 毎日新聞 2010年9月14日 (田中正之).

動物園 粗食で元気 食に時間 野生の力. 朝日新聞 2010年11月20日 (田中正之).

京都まなびのスポット その4 京都市動物園. 家庭教育新聞あしたのために vol.196 2010年12月 (田中正之).

京に輝く. 京都市広報紙「きょうと市民しんぶん」2010年12月1日 (田中正之).

大人も楽しめる京都市動物園のいま. 月刊「京都」vol. 7 14 2011年1月 (田中正之).

京都動物園の人気マンドリル死ぬ 子ザルが数字を「勉強」. 共同通信 2011年1月18日 (田中正之).

数字選び実験のきっかけ, マンドリル早すぎる死. 読売新聞 2011年1月19日 (田中正之).

「マングロウ」死ぬ 記憶の達人 忘れない. 産経関西 2011年1月19日 (田中正之).

マンドリル: 昇天 数字の勉強, 子へ託す. 毎日新聞 2011年1月20日 (田中正之).

男前ジョーは子だくさん—日本人脈記. 朝日新聞 2011年2月16日 (森村成樹).

ふしぎがいっぱい(#20) サルの気持ちを知りたい! NHK教育 2011年2月26日 (田中正之).

NEWS TRAIN 特集: 動物園にやってきたマルク. 熊本朝日放送 2011年3月16日 (CSU).

遺伝子使って性別判定. 京都新聞 2011年3月20日 (村山美穂).

20. 附属観察所利用実績

幸島観察所

共同通信社. 報道取材. 2010年4月8日.
宮崎日々新聞. 報道取材. 2010年4月19日.
京都大学野生動物研究センター 9名. 野外実習. 2010年5月9日～15日.
京都大学霊長類研究所 8名. 生態学実習. 2010年5月16日～22日.
Anna Albiach Serrano (Max Planck Institute [ドイツ] 大学院博士課程) 他1名. ニホンザルにおける抑制制御機能の研究. 2010年5月18日～6月2日.
串間市立北方小学校. 見学会. 2010年5月28日.
原澤牧子 (京都大学 大学院博士課程). ニホンザルのアカンボウ運搬行動に影響する要因の検討. 2010年6月21日～8月2日.
NHK. 「ダーウィンが来た！」報道取材. 2010年7月5日.
栗田博之 (大分市 主査). ニホンザルの体長計測. 2010年8月2日～6日.
水野佳緒里 (岐阜大学 学部生). 野生下ニホンザルのビデオ版行動目録の作成. 2010年8月8日～20日.
宮崎県. PRビデオ撮影 報道取材. 2010年8月24日.
鈴木健太 (岐阜大学 学部生). ニホンザルの観察. 2010年8月31日～9月7日.
国際霊長類学会 16名. IPS2010 エクスカーション. 2010年9月18日～21日.
串間市立市木小学校 10名. 見学会. 2010年10月25日.
宮崎県新富町長寿会 40名. 見学会. 2010年11月1日.
NPO 法人みやざき子ども文化センター 幸島探検隊 33名. 社会教育. 2010年11月23日.
宮崎大学生物学基礎実験Ⅱ (指導: 岩本俊孝 [宮崎大学 教授]) 10名. 野外実習. 2010年11月23日.
宮崎大学フィールド体験実践講座 8名 (指導: 岩本俊孝 [宮崎大学 教授]). 野外実習. 2010年11月23日.
串間市立有明小学校. 見学会. 2010年11月24日
風張喜子 (京都大学 研究員). ニホンザルの個体群調査. 2010年12月5日～9日.
夏目尊好 (岐阜大学 学部生). ニホンザルの行動観察. 2011年3月1日～13日.
自然学ポケットゼミナール (岐阜大学学部生他 指導: 松沢哲郎 [京都大学 教授]) 11名. 幸島実習. 2011年3月9日～13日.

屋久島観察所

幸田良介 (京都大学 大学院博士課程). ヤクシカの密度と植生への影響に関する調査. 2010年4月20日～30日.
藤田真梨子 (神戸大学 大学院博士課程). ヤマモモとヤマモモを食害するヤマモモキバガの調査. 2010年4月20日～30日.
半谷吾郎 (京都大学 准教授). 屋久島高標高地域でのニホンザルの個体数調査. 2010年4月22日～28日.

野邊麻梨子 (鹿児島大学 大学院修士課程). 常緑低木ボショウジの葉の動態に与えるシカの影響調査. 2010年5月13日～14日.
渡部俊太郎 (滋賀県立大学 大学院修士課程) 他1名. タブノキ集団の遺伝構造の研究. 2010年5月16日～23日.
半谷吾郎 (京都大学 准教授). 屋久島高標高地域でのニホンザルの個体数調査. 2010年5月18日～24日.
幸田良介 (京都大学 大学院博士課程) 他4名. 京都大学 Global COE 屋久島実習のための下見と予備調査. 2010年5月19日～25日.
寺川眞理 (京都大学 研究員). ヤクシマザルによるヤマモモの種子散布. 2010年5月24日～6月6日.
揚妻直樹 (北海道大学 准教授) 他1名. 照葉樹林内におけるシカの採食効率に与えるサルの影響. 2010年6月4日～17日.
西川眞理 (京都大学 大学院博士課程). ヤクシマザルのオトナメスにおける採食競合回避の仕組みの解明, および夜間の行動観察. 2010年6月7日～20日.
藤田真梨子 (神戸大学 大学院博士課程). ヤマモモとヤマモモを食害するヤマモモキバガの調査. 2010年6月17日～25日.
都野展子 (金沢大学 准教授). ニホンザルのキノコ食の調査. 2010年6月28日～7月1日.
大久保実香 (東京大学 大学院博士課程). 農業や観光業の現状などに関する聞き取り調査. 2010年7月6日～20日.
Andrew MacIntosh (京都大学 Research Associate). Patterns of nematode infection among Japanese macaques. 2010年7月14日～21日.
谷口晴香 (京都大学 大学院博士課程). ヤクシマザルのアカンボウの採食行動の調査. 2010年7月14日～21日.
杉浦秀樹 (京都大学 准教授) 他8名. 西部地域におけるニホンザルおよびヤクシカの個体数調査. 2010年7月17日～8月25日.
澤田晶子 (京都大学 大学院博士課程). ヤクシマザルにおけるキノコ採食行動の観察およびキノコの分布調査. 2010年7月18日～9月2日.
寺川眞理 (京都大学 研究員) 他1名. ニホンザルによるヤマモモの種子散布の研究のための遺伝解析用サンプルの採集. 2010年8月17日～9月7日.
幸田良介 (京都大学 大学院博士課程). 糞塊を用いたヤクシカの密度推定調査. 2010年8月19日～9月2日.
早川祥子 (京都大学 研究員) 他2名. ヤクシマザルの長期継続観察とDNA サンプル採取. 2010年8月25日～9月9日.
藤田真梨子 (神戸大学 大学院博士課程). ヤマモモとヤマモモを食害するヤマモモキバガの調査. 2010年8月28日～9月4日.
半谷吾郎 (京都大学 准教授) 他36名. フィールド科学実習. 2010年9月2日～8日.
Armand Jacobs (Strasbourg University [フランス] 大学院博士課程) 他4名. ヤクシマザルの見学. 2010年9月9日～12日.
Ruth Thomesen (University of Leipzig [ドイツ] Senior

Scientist). Study on sperm quality in Yakushima macaques. 2010年9月18日～25日.

澤田晶子 (京都大学 大学院博士課程). ヤクシマザルにおけるキノコ採食行動の観察およびキノコの分布調査. 2010年9月18日～10月6日.

杉浦秀樹 (京都大学 准教授). 国際霊長類学会・IPS2010 エクスカーション. 2010年9月18日～21日.

谷口晴香 (京都大学 大学院博士課程). ヤクシマザルの離乳期のアカンボウとその母親の採食行動. 2010年9月28日～11月27日.

幸田良介 (京都大学 大学院博士課程). ヤクシカ生息密度推定. 2010年9月28日～10月8日.

大谷洋介 (京都大学 大学院修士課程). 交尾期におけるニホンザルオスの行動研究. 2010年10月7日～11月1日.

福永恭啓 (滋賀県立大学 大学院修士課程). ニホンザルの母子関係と社会交渉の調査. 2010年10月7日～11月12日.

半谷吾郎 (京都大学 准教授). 屋久島高標高地域でのニホンザルの個体数調査. 2010年10月14日～20日.

香田啓貴 (京都大学 助教) 他1名. ニホンザルの音声に関する予備調査. 2010年10月18日～23日.

藤田真梨子 (神戸大学 大学院博士課程). ヤマモモとヤマモモを食害するヤマモモキバガの調査. 2010年10月31日～11月5日.

西川真理 (京都大学 大学院博士課程) 他1名. ヤクシマザルのオトナメスにおける採食競合回避および夜間の行動観察. 2010年11月1日～12月4日.

東樹宏和 (京都大学 助教) 他1名. 植生帯による菌根菌相の研究. 2010年11月5日～12日.

Helene Bouchet (京都大学 日本学術振興会特別研究員 PD). ニホンザルメスの交尾期に関連した音声の機能に関する研究. 2010年11月18日～2011年2月2日.

藤田真梨子 (神戸大学 大学院博士課程) 他1名. ヤマモモとヤマモモを食害するヤマモモキバガの調査. 2010年11月30日～12月5日.

谷口晴香 (京都大学 大学院博士課程). ヤクシマザルの離乳期のアカンボウとその母親の採食行動. 2010年12月4日～2011年3月29日.

風張喜子 (京都大学 研究員). ニホンザルの個体群調査. 2010年12月9日～12日.

揚妻直樹 (北海道大学 准教授). ヤクシカとヤクシマザルの動態調査. 2010年12月23日～25日.

辻野亮 (総合地球環境学研究所 研究員). シカの採食圧が植生に与える影響調査. 2011年1月10日～17日.

Charlotte Payne (大和日英基金奨学生 [京都大学] 学部卒・奨学生). 野生動物と人の軋轢に関する聞き取り調査. 2011年1月11日～3月17日.

幸田良介 (京都大学 大学院博士課程). 糞隗法を用いたヤクシカの密度調査. 2011年2月24日～3月3日.

西川真理 (京都大学 大学院博士課程) 他1名. ヤクシマザルのオトナメスにおける採食競合回避および夜間の行動観察. 2011年3月16日～28日.

2010年度 京都大学野生動物研究センター年報

発行者

京都大学野生動物研究センター

〒606-8203 京都市左京区田中関田町 2-24

京都大学 関田南研究棟

電話: 075-771-4393 FAX: 075-771-4394

<http://www.wrc.kyoto-u.ac.jp/>

2011年5月発行



www.wrc.kyoto-u.ac.jp